

id	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2001	最新裁縫教科書 中巻	1939	昭和十四年	9	12	工場学校教育研究会	その他	最新洋裁教科書	日清紡績付属実科女学校編纂。日本青年教育界出版部発売。カラーの図(幼児服など)あり。
2002	時局防空必携	1943	昭和十八年	7	15	内務省・愛知県警防課	その他		空襲に対する備え(都市)
2003	われらの歌 国民愛唱歌集 第四巻	1943	昭和十八年	8	5	新興音楽出版社	その他		日本厚生音楽協会理事:奥田良三・日本音楽文化協会理事:宮田東峰 共編。楽譜は西洋風だが、ドレミの代わりに1・2・3になっている。
2004	心の雫 8冊	1943	昭和十八年	10	1	むつみ会	雑誌・書籍	「軍人の徹底に生きん」「愛国いろはかるた」「一億の総進軍」「少年産業戦士を送る」など	4/1(2冊)・5/1・6/1・7/1・8/25・9/1・10/1発行の7種類。(すべて昭和18年)
2005	いろは引大辞典(国語辞典)	1927	昭和二年	10	15	香蘭社書店	その他		文学博士植松安監修。旧仮名遣い。ぼうゐ(暴威)の次がボーイ(男の子・給仕)だったりする。
2006	芝居とキネマ	1925	大正十四年	1	1	大阪毎日新聞社出版部	その他		大正13年9月号から14年新年号まで5冊。紐でひとつに綴じてある。
2007	中部日本新聞	1951	昭和二十六年	6	5	中部日本新聞社	新聞	第十国会きょう閉幕 『警察法改正』成立 ダレス顧問、英京到着	
2008	中部日本新聞	1951	昭和二十六年	6	4	中部日本新聞社	新聞	対日講和きょうから米英会談日銀近く新金融政策実施	
2009	中部日本新聞	1944	昭和十九年	7	22		新聞	閣僚の選考終了 ヒ総統、難を免る-爆破暗殺事件失敗す	
2010	大阪毎日新聞	1920	大正九年	8	11	大阪毎日新聞社	新聞	「真珠夫人」(64)ユーチツトその7	3・4・5・6・7・8面しかない。薬品・化粧品広告が多い。
2011	大阪毎日新聞 夕刊	1920	大正九年	8	13	大阪毎日新聞社	新聞	対露戦争反対-英国労働組合の威嚇 東清撤兵要求-支那政府の抗議	
2012	都新聞	1920	大正九年	8	12	都新聞社	新聞	救援不可能-ワルソーに過激政府建設決意(2面) 流石の三越も徐々手を締める(7面)	1・2面と7・8面のみ。
2013	新愛知	1940	昭和十五年	9	14	新愛知新聞	新聞	新体制準備会使命完了 敵廿七機を殲滅(海鷲重慶攻撃) ベタン佛内閣危機に瀕す	
2014	新愛知	1940	昭和十五年	9	14	新愛知新聞社	新聞	気遣はる”戦禍の都” 聖母が生んだ在英牧野義雄画伯の消息(3面)	3・4面のみ。(No.2013の一部かもしれない。)
2015	新愛知	1930	昭和五年	4	8	新愛知新聞社	新聞	政府の苦手—貴院の動きは? 空前の失業者に備へ—全国的に「求人デー」	1・2面のみ。

id	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2016	新愛知	1930	昭和五年	4	8	新愛知新聞社	新聞	児童益々激増し収容難の悲鳴揚る-やむなく70人の学級編成(6面) 東電組織改革問題(3面) 今日豊川で棒の手献馬(6面)	3・4・5・6面。3面は経済。5・6面は三河版。広告が多い。No.2015の続き。
2017	新愛知	1930	昭和五年	4	8	新愛知新聞社	新聞	名古屋港でやる最初の海上メーデー(7面)	7・8面。2015・2016の続き。
2018	新愛知	1929	昭和四年	2	2	新愛知新聞社	新聞	名古屋の預金利下げ率果然！問題となる。失態の原因は東西の軽挙(3面)	3・4面のみ。(5・6面が破り取られたようになっている。)4面の顔写真は、肺病の薬の広告。(50人くらい)当時(昭和四年)の女性の髪型が色々で面白い。
2019	新愛知 夕刊	1926	大正十五年	2	14	新愛知新聞社	新聞	解散か非解散か-運命は両三日中に決る。樺太に対する政策は、矛盾も亦極まれり	13日の夕刊だが、欄外の日付は14日。
2020	新愛知	1926	大正十五年	2	14	新愛知新聞社	新聞	党弊を助長する下諏訪塩尻線の編入(3面)	3・4・5・6面。5・6面は三河版。
2021	従軍の思い出	1977		12	18	一宮氏軍恩会	その他	満州編・北支編・中支編・南支編・仏印・ビルマ編・東南アジア編・南方編・国内編・海軍編	文集と、当時の新聞の切り抜き・地図。
2022	侵？(華)日軍南京大虐殺暴行照片集	1985		8		南京大虐殺史料編？委員会	その他		中国語。写真多数。日本軍の暴行状況を中国側で撮影・編集したもの。
2023	終戦詔書コピー	1945	昭和二十年	8	14		その他		ラジオの放送(15日の)の原稿？と天皇の署名と印と各大臣(16人)の署名。
2024	軍人勅諭	1882		1	4		その他	忠節・礼儀・武勇・信義・質素	明治15年。
2025	文集「むらさき」	1945	昭和二十年	3			その他	むらさき会誌第7号 決戦号	寄贈者の母親の、師範学校の同窓会(むらさき会)の文集(?)ガリ版刷り。赤いリボンで綴じてある。
2026	中部日本新聞	1944	昭和十九年	12	31	中部日本新聞社	新聞	敵補強船団を反復猛攻	台湾総督・安藤大将、B29帝都侵入、銀の回収一月迄延期
2027	朝日新聞	1944	昭和十九年	12	31	朝日新聞大阪本社	新聞	ミンドロ島目ざす敵艦船九隻撃沈破	敵またサンイシドロ上陸、伊の二市を独軍占領
2028	中部日本新聞	1945	昭和二十年	1	9	中部日本新聞社	新聞	二重橋前に陸軍始観兵式	ルソン島上陸を焦り敵、艦砲射撃を継続、決戦消灯運動
2029	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	3	中部日本新聞社	新聞	沖縄本島に敵兵力増強	B29約五十機夜襲・帝都へ時限爆弾、首相を総司令に
2030	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	5	中部日本新聞社	新聞	沖縄本島上陸の敵・泡瀬、島袋附近に進出	婦人も挺身斬り込み、B29約九十機夜襲、印度洋戦局新段階へ
2031	朝日新聞	1945	昭和二十年	4	5	朝日新聞東京本社	新聞	沖縄本島の守備部隊	沖縄決戦刻々に重大、頻発する街灯示威・飢餓線上の解放諸国
2032	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	7	中部日本新聞社	新聞	鈴木貫太郎大将に 組閣の大命降下	沖縄本島東岸に激戦展開 日ソ中立條(条)約不延長 栗林中将、大将に-噫・硫黄島方面最高司令官(戦死により進級)
2033	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	8		新聞	必勝強力内閣成立	270機来襲、名古屋、帝都を爆撃、沖縄の敵逐次南下
2034	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	14	中部日本新聞社	新聞	戦艦二、空母三始め 廿一隻を撃沈破 沖縄本島殺傷六千三百	ルーズヴェルト急死-後任にトルーマン昇格-静養中、脳溢血

id	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2035	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	19	中部日本新聞社	新聞	沖繩決戦・今ぞ神機到る	艦船撃沈破實に四百・尚ほ空前の猛撃続行、奄美大島沖機動部隊を猛攻、九州へB29延百八十機
2036	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	20	中部日本新聞社	新聞	鈴木首相・特旨により大本営へ	兵一千、戦車八十・敵伊江島に新上陸、京浜へP51五十機・硫黄島基地整備完了 世紀の伯林攻防戦
2037	中部日本新聞	1945	昭和二十年	4	21	中部日本新聞社	新聞	本土決戦訓・全軍に布告- 驚るゝも魂魄留まつて神州を守護- 一億戦友の先驅たれ。	南部攻撃の一方を我が軍、陣前に撃退。- 沖繩上陸、六個師十萬
2038	中部日本新聞	1945	昭和二十年	5	1	中部日本新聞社	新聞	陸海皇軍・沖繩に奮戦 B29、P51計二百機/關東、東海へ来襲	
2039	中部日本新聞	1945	昭和二十年	5	17	中部日本新聞社	新聞	敵、全線に三度攻勢/那覇近郊崇之寺町に侵入	社説:日独伊3国関係清算さる。
2040	中部日本新聞	1945	昭和二十年	5	19	中部日本新聞社	新聞	敵重戦車を繰出し/那覇前面に攻撃集中 敗戦独逸の近状	運通省を運輸省に/通信院を内閣に移管
2041	中部日本新聞	1945	昭和二十年	7	1	中部日本新聞社	新聞	山容革(あらた)まる猛砲爆下/バリツクパパン敵兵力逐次増強	社説「牛島最高司令官の割腹を聞いて」国内戦場化に対処
2042	中部日本新聞	1945	昭和二十年	7	18	中部日本新聞社	新聞	中小都市を欺騙攻撃/B29三百余機/桑名、沼津、平塚、大分を焼爆	機動部隊、依然近海に遊弋 四千名を殺傷/バリツク敵次期攻勢に狂奔 (インド)独立運動に慶祝
2043	中部日本新聞	1945	昭和二十年	7	20	中部日本新聞社	新聞	機動部隊なほ近海遊弋/撃墜破百卅五機 東海地区へP51六十機	共同占領制を確立/対獨情報を調整統一 -三頭会談と米の腹案
2044	中部日本新聞	1945	昭和二十年	7	22	中部日本新聞社	新聞	古強者を第一線に/本土殺到の氣構へ-敵、侵寇陣容を一新強化	マツカーサー・マウントバツテン・スパーツ・ミニツツ・エモンズ(顔写真) 敵出血、日に増大-バリツクパパン
2045	中部日本新聞	1945	昭和二十年	7	30	中部日本新聞社	新聞	首相、戦争完遂の決意闡(せん)明 中小都の暴爆愈々激化/B29二百六十機侵入	米英重慶宣言を黙殺 空母撃沈を確認-プケット島、荒天衝き猛襲 話題「英国政変米国落胆」
2046	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	1	中部日本新聞社	新聞	敵艦艇、清水港を砲撃(撃)インフレ防止/戦傷物價対策	社説「国際的孤立に陥らんとする米国」「主食副食一體化」
2047	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	2	中部日本新聞社	新聞	陸海の戦備着々強化/千余機を撃墜破(七月)-大本営発表	敵兵三千を殺傷-バリツク ス元帥病む(スターリンが微熱で引籠っている)(ポツダム会談中)
2048	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	6	中部日本新聞社	新聞	沖繩三飛行場強襲 P51約八十關東来襲 ミツチーを完全占領/ペギーに一大脅威	食糧難は世界的/飢餓状態の歐洲/敵米も最低食生活へ敗戦ドイツの實情-永久の奴隷化企圖/ポツダム宣言で明文化
2049	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	7	中部日本新聞社	新聞	海上特攻隊の偉勳全軍布告-伊藤司令長官を先頭/沖繩敵艦船に突入/全員悠久の大儀に殉ず	B29四百十五機關東・中部を攻撃 対日作戦区域を変更-南方は英濠軍が主體

id	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2050	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	8	中部日本新聞社	新聞	B29、広島市攻撃に/新型爆弾を使用-落下傘で投下、空中破裂か	大本営発表-一、昨八月六日広島市は敵B29少数機の攻撃に依り相當の被害を生じたり 二、敵は右攻撃に新型爆弾を使用せるものゝ如きも詳細目下調査中なり 東印度獨立準備
2051	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	9	中部日本新聞社	新聞	百五十機来襲/大島島を艦砲撃 新型爆弾の防禦対策-堅牢丸太掩蓋濠が有効	
2052	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	10	中部日本新聞社	新聞	ソ聯突如・對日宣戦を布告	佐藤大使へ正式通告/九日、戦争状態に入る/ついに米英蔣宣言に参加 満ソ国境東西からソ聯軍攻撃を開始 長崎に新型爆弾か-被害は極めて僅少な見込
2053	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	11	中部日本新聞社	新聞	帝國今や最惡の事態に立つ-國體護持の爲には/一億萬難に耐へよ/政府また最善を盡さん	殘虐極む新型爆弾/國際法を蹂躪/帝國、米に嚴重抗議 機動部隊を痛撃-樺太でもソ聯攻撃開始 一千機東北來襲 皇太子殿下御健勝/近く御學問所にて御勉學(御近影)
2054	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	12	中部日本新聞社	新聞	ソ軍・満州里に侵入/雄基附近(東部)で激戦中 關東州全域に戒嚴令	新型爆弾で威嚇/敵機の来襲やゝ低調
2055	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	15	中部日本新聞社	新聞	聖斷畏し・和平の大詔降る 三國共同宣言受諾-十日四國政府に通達	詔書全文 米英ソ重慶の四国
2056	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	16	中部日本新聞社	新聞	鈴木内閣總辭職 阿南陸相自刃 高性能の原子爆弾・一億の戦争努力を烏有	動員學徒引揚げ 講和までなほ3段階 戦闘停止の要求
2057	中部日本新聞	1945	昭和二十年	9	18	中部日本新聞社	新聞	進駐兵力を削減 首相宮殿下・けふ/外人記者(七十名)と御会見	マ元帥東京司令部に入る
2058	中部日本新聞	1948	昭和二十三年	11	13	中部日本新聞社	新聞	東京裁判・廿五被告に世紀の斷罪 無罪、一名もなし	東條以下七名に絞首刑/終身刑十六名 有期刑東郷、重光 ノーベル賞にかがやく人々-エリオット(独創的な詩形)・ブラケット(放射微粒子撮影)・チセリウス(たん白質の研究)
2059	日本国憲法 小冊子	1946	昭和二十一年	11	5	府中書院	その他	第一章 天皇 第二章 戦争の放棄 第三章 國民の權利及び義務 第四章 國會 第五章 内閣 第六章 司法 第七章 財政 第八章 地方自治 第九章 改正 第十章 最高法規 第十一章 補則	漢字は、古い漢字を使っている。全30ページ。表紙が取れている。(取り扱い注意)
2060	新愛知 号外	1937	昭和十二年	1	19	中部日本新聞社	新聞	2・26事件の背後關係判決	満井中佐をはじめ/齋藤少將ら處斷さる けふ陸軍省から發表 涙に曇る關係者の家庭
2061	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	15	中部日本新聞社	新聞	No.2055と同じ。	No.2055と同じ。
2062	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	16	中部日本新聞社	新聞	No.2056と同じ。	No.2056と同じ。
2063	中部日本新聞	1945	昭和二十年	8	17	中部日本新聞社	新聞	東久邇宮殿下に大命降下	けふ親任式御舉行 近衛公 緒方氏入閣-内定せる閣僚顔觸れ
2064	毎日新聞	1942	昭和十七年	1	9	大阪毎日新聞社	新聞	威風堂々・無敵皇軍	陸軍始観兵式、早くも前衛拠点へ突入

id	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2065	朝日新聞	1942	昭和十七年	2	16	朝日新聞大阪本社	新聞	新嘉坡最後の日迫る	四飛行場を制壓、皇軍轟進、マレー半島縦貫鉄道貫通す
2066	朝日新聞	1942	昭和十七年	4	8	朝日新聞大阪本社	新聞	豪壮・マレー大血戦記	進路北と見せ突如大轉進、印度本土初空襲
2067	朝日新聞	1942	昭和十七年	5	3	朝日新聞社	新聞	衆議院議員一覧	第廿一回総選挙
2068	大阪新聞	1942	昭和十七年	11	9	大阪新聞社	新聞	決戦下の生産力強化へ	官民一致、猛運動を展開、獨、後退作戦成る
2069	朝日新聞	1942	昭和十七年	11	18	朝日新聞大阪本社	新聞	統制會への権限委譲全貌	鐵鋼、石炭、鑛山など十二種に差当り實現、憲兵令を改正
2070	朝日新聞	1942	昭和十七年	11	21	朝日新聞大阪本社	新聞	朝鮮の同胞へ徴兵制	政府提出十八法律案要綱、戦力増強へ拍車
2071	朝日新聞	1943	昭和十八年	1	18	朝日新聞大阪本社	新聞	海軍水上機の勇戦に感状	敵六機と単機奮戦、衣料切符 点数一斉引上げ
2072	中部日本新聞	1945	昭和二十年	1	4	中部日本新聞社	新聞	B29 九十機名古屋来襲	三機壯絶の体当たり、浜松 大阪にも進入、市街地を暴爆
2073	朝日新聞	1944	昭和十九年	8	13		新聞	陸海空 7月中の航空戦果 インパール戦線整理/國境線 に待機 本土空襲嚴戒を要す	
2074	朝日新聞	1944	昭和十九年	9	24		新聞	比島共和國參戦す 梧州を 攻略す	

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2075	A	1 大阪朝日新聞 第2号外	1931	昭和六年	11	21	大阪朝日新聞社	新聞	皇軍一挙に馬軍を粉碎	昂々溪 大激戦 第一画報。 (写真中心)
2076	A	2 大阪朝日新聞 第3号外	1931	昭和六年	11	21	大阪朝日新聞社	新聞	長駆チチハルに進撃	馬占山軍 撃滅戦 第二画報。 (写真中心)
2077	A	3 大阪毎日新聞 第3号外	1931	昭和六年	11	21	大阪毎日新聞社	新聞	チチハル戦況第一報	皇軍兇暴なる馬軍を撃滅す。 (写真中心)
2078	A	4 大阪朝日新聞 号外	1931	昭和六年	11	22	大阪朝日新聞社	新聞	皇軍チチハルに入る	横田・丸山・佐野本社写真班撮影。 (写真中心)
2079	A	5 大阪朝日新聞 第2号外	1931	昭和六年	11	22	大阪朝日新聞社	新聞	武威堂々皇軍の入城	チチハル占拠写真画報。 (写真中心)
2080	A	6 大阪毎日新聞 号外	1931	昭和六年	11	23	大阪毎日新聞社	新聞	弾雨を浴びて写す	昂々溪・チチハル戦線激戦の跡。 (写真中心)
2081	A	7 大阪朝日新聞 号外	1931	昭和六年	11	26	大阪朝日新聞社	新聞	学良別働隊掃蕩画報	湯崗子、新民県方面。 (写真中心)
2082	A	8 大阪朝日新聞 第3号外	1931	昭和六年	11	27	大阪朝日新聞社	新聞	張学良 錦州軍に総攻撃 令を発す 我軍と英米仏伊軍 天津 を	北寧、打通両線より。 支那側の背信に大憤慨。 (写真中心)
2083	A	9 大阪毎日新聞 第3号外	1931	昭和六年	11	27	大阪毎日新聞社	新聞	先ず〇〇聯隊急派 引つ づき〇〇師団 天津の各国軍 共同動 作を開始	〇〇救援軍派遣に決す、両師団長へ準備内命。 廿六時間以内に保安隊の武装解除を要求。
2084	A	10 大阪毎日新聞 第4号外	1931	昭和六年	11	27	大阪毎日新聞社	新聞	天津再動乱	再び猛射を開始 敵は明かに正規兵。 (写真中心)
2085	A	11 大阪毎日新聞 第2号外	1931	昭和六年	11	29	大阪毎日新聞社	新聞	わが軍撤退に乘じ 学良 軍攻勢に出る	大凌河の戦備を固む 馬軍もチチハル奪回の計 画。
2086	A	12 大阪朝日新聞 号外	1931	昭和六年	11	30	大阪朝日新聞社	新聞	天津交戦第二画報	[二十七・八日]藤本本社特派員撮影。 (写真中心)
2087	A	13 大阪朝日新聞 号外	1931	昭和六年	12	26	大阪朝日新聞社	新聞	田庄台方面の激戦	敵弾を浴びて本社機から冒険撮影。 (写真中心)
2088	A	14 大阪毎日新聞 号外	1932	昭和七年	1	2	大阪毎日新聞社	新聞	両〇団の前衛部隊 早く も	いよいよ錦州総攻撃。 (裏面写真中心)
2089	A	15 大阪毎日新聞 第3号外	1932	昭和七年	1	2	大阪毎日新聞社	新聞	六將軍くつわを並べ あ す	威風堂々、未曾有の盛観。 (裏面写真中心)
2090	A	16 大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	1	2	大阪朝日新聞社	新聞	我主力大凌河を越え愈 よ(いよいよ)あす錦州へ 入城	「民衆は日本軍を信頼せよ」入城後一般に布告。 (裏面写真中心)
2091	A	17 大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	1	2	大阪朝日新聞社	新聞	溝帮子を占拠・錦州へ	本社機空輸 本社特派員撮影。 (写真中心)
2092	A	18 大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	1	3	大阪朝日新聞社	新聞	錦州を目指す我軍	石山にて本社特派員撮影。 (写真中心)
2093	A	19 大阪朝日新聞 第2号外	1932	昭和七年	1	3	大阪毎日新聞社	新聞	堂々我軍 錦州に入城の 大盛観	室師団長総指揮で 全軍意気高く城内へ。
2094	A	20 大阪毎日新聞 第2号外	1932	昭和七年	1	3	大阪毎日新聞社	新聞	皇軍の主力部隊 錦州 へ	今朝九時 装甲列車を先頭。 (裏面写真中心)
2095	A	21 大阪毎日新聞 第2号外	1932	昭和七年	1	4	大阪朝日新聞社	新聞	見よ皇軍錦州入城の壮 観	錦州より大阪へ 本社空中輸送。 (写真中心)

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2096	A	22 大阪朝日新聞号外	1932	昭和七年	1	4	大阪朝日新聞社	新聞	日章旗を仰いで甦へる錦州市民	戸ごとに翻へる「歓迎日軍」の日章旗。
2097	A	23 大阪朝日新聞第2号外	1932	昭和七年	1	4	大阪朝日新聞社	新聞	我軍錦州入城の壮観	占拠後の第一報。(写真中心)
2098	A	24 大阪朝日新聞第3号外	1932	昭和七年	1	4	大阪朝日新聞社	新聞	我軍錦州入城第二画報	五特派員 三日撮影。(写真中心)
2099	A	25 大阪朝日新聞第2号外	1932	昭和七年	1	29	大阪毎日新聞社	新聞	頑強な敵兵を撃退 閘北一帯我軍に帰す	全く戦乱の巷と化した上海 我軍の死傷六十名に達す。(裏面写真中心)
2100	A	26 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	1	29	大阪毎日新聞社	新聞	深夜の市街戦に我軍戦死	上海の日支交戦益々激化 陸戦隊各要所を占拠。
2101	A	27 大阪毎日新聞号外第2	1932	昭和七年	1	29	大阪毎日新聞社	新聞	南京政府遂に上海局部戦に決す	海軍にも出動準備命令 南京は戦時状態。
2102	A	28 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	1	30	大阪毎日新聞社	新聞	上海事変写真第一報	廿五～廿八日本社特派員撮影。(写真中心)
2103	A	29 大阪朝日新聞第2号外	1932	昭和七年	1	30	大阪朝日新聞社	新聞	英支両軍激戦 長谷部部隊ハルピンに迫る	支那軍猛射し英軍防戦。既に五家子に到着。
2104	A	30 大阪朝日新聞号外	1932	昭和七年	1	31	大阪朝日新聞社	新聞	英米両国政府 対日公式抗議を提出	出淵駐米大使 米國務卿を訪問、日本の立場を確言。
2105	A	31 大阪朝日新聞第2号外	1932	昭和七年	1	31	大阪朝日新聞社	新聞	国民政府遂に宣戦布告に決す	上海は大混乱！人心極度に動揺。
2106	A	32 大阪朝日新聞第3号外	1932	昭和七年	1	31	大阪朝日新聞社	新聞	南北の禍乱愈よ拡がる	双城の激戦で我軍死傷六十を算す。
2107	A	33 大阪朝日新聞第4号外	1932	昭和七年	1	31	大阪毎日新聞社	新聞	擾(じょう)乱のハルピンを観る	喜多本社特派員(二十八日)撮影。(写真中心)
2108	A	34 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	1	31	大阪毎日新聞社	新聞	今明日中に対日宣戦を布告せん	蒋介石、汪兆銘、林森三巨頭、昨夜、急ぎ上海に向う。
2109	A	35 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	1	31	大阪毎日新聞社	新聞	戦火の巷 上海第二報	一月廿九日 本社上海特派員撮影。(写真中心)
2110	A	36 大阪朝日新聞号外	1932	昭和七年	1	1	大阪朝日新聞社	新聞	銃火線上に踊る上海	弾雨の洗礼を浴び 戦禍の街を駆け巡る。(裏面写真中心)
2111	A	37 大阪朝日新聞第3号外	1932	昭和七年	2	1	大阪朝日新聞社	新聞	上海日支衝突画報	鈴木本社特派員 廿九・卅両日撮影。(写真中心)
2112	A	38 大阪朝日新聞号外	1932	昭和七年	2	2	大阪朝日新聞社	新聞	上海の形勢更に重大化	停戦協定ならず 英米一時手を引く、日支交渉物別れ。(裏面写真中心)
2113	A	39 大阪朝日新聞第3号外	1932	昭和七年	2	2	大阪朝日新聞社	新聞	我軍総攻撃開始 南京の支那軍	上海に砲声殷々。
2114	A	40 大阪朝日新聞第4号外	1932	昭和七年	2	2	大阪朝日新聞社	新聞	敵兵の挑戦頻(しき)り 我軍俄然総攻撃、上海	わが野砲隊 砲撃開始、空母飛翔に出動命令。
2115	A	41 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	2	2	大阪毎日新聞社	新聞	多門、長谷部両部隊 今朝ハルピン入り 我軍と反軍交戦中	その前に激戦免れず 銃声漸次市街に近づく
2116	A	42 大阪毎日新聞号外	1932	昭和七年	2	2	大阪毎日新聞社	新聞	米原中隊長 軍刀で自殺を企つ 便衣隊盛んに襲来 各所に激戦展開	塩沢司令官の決断を促す。 我一斉射撃で撃退す。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2117	A 43	大阪毎日新聞 第3号外	1932	昭和七年	2	2	大阪毎日新聞社	新聞	軍令部長に 伏見宮殿下 御推戴 南京の支那砲台 突如 我艦に発砲	谷口部長は辞任。 天龍、対馬両艦応戦。
2118	A 44	大阪毎日新聞 第4号外	1932	昭和七年	2	2	大阪毎日新聞社	新聞	上海爆撃を開始	野砲も射撃を開始。
2119	A 45	大阪毎日新聞 号外	1932	昭和七年	2	3	大阪毎日新聞社	新聞	英首相と米國務卿が対 日提議、4か国提携が成	英米仏伊4か国提携で、軍事行動を停止し直接交 渉を開け。(裏面写真中心)
2120	A 46	大阪毎日新聞 第2号外	1932	昭和七年	2	3	大阪毎日新聞社	新聞	加賀の〇〇機が呉淞砲 台を爆撃	一拳に烏有に帰す。
2121	A 47	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	2	3	大阪朝日新聞社	新聞	聯盟緊急理事会 英米 仏などの対日行動を支	独、伊も同一行動を声明。 (裏面写真中心)
2122	A 48	大阪朝日新聞 第2号外	1932	昭和七年	2	3	大阪朝日新聞社	新聞	壮烈！上海市街戦	大村一広島本社義勇機にて空輸 鈴木特派員撮 影。
2123	A 49	大阪朝日新聞 第3号外	1932	昭和七年	2	3	大阪朝日新聞社	新聞	英米仏の提議にわが政 府中立地帯原則的に援	不増兵には反対。
2124	A 50	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	2	4	大阪朝日新聞社	新聞	我軍・空陸より総攻撃	猛然敵陣に躍り込む、敵の手榴弾に我兵壮烈な戦 死。
2125	A 51	大阪朝日新聞 第2号外	1932	昭和七年	2	4	大阪朝日新聞社	新聞	今朝再び上海で第二次 総攻撃開始	まづ野砲火蓋を切る。
2126	A 52	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	2	5	大阪朝日新聞社	新聞	我勇猛な夜襲 遂に敵軍 を掃蕩 北満までも重大化 多門 将軍自ら陣頭に立ち進軍	火焰閘北一帯を包み 凄壮なる総攻撃第二日。 反軍と衝突 砲弾市内に落下。 (裏面写真中心)
2127	A 53	大阪朝日新聞 第2号外	1932	昭和七年	2	5	大阪朝日新聞社	新聞	英米両国からまたも抗議 第三次総攻撃始まる	共同租界根拠を理由に。 我が軍爆撃を敢行。
2128	A 54	大阪朝日新聞 第3号外	1932	昭和七年	2	5	大阪朝日新聞社	新聞	総攻撃直前の上海	鈴木・小久保両写真部員撮影。 (写真中心)
2129	A 55	大阪毎日新聞 号外	1932	昭和七年	2	5	大阪毎日新聞社	新聞	わが先発部隊 遂にハル ピンに入る 郊外各所を 占拠 吉林軍内訌を起す	敵兵雪崩を打って退却 丁超ら逃走。 一軍長は一營長を射殺。
2130	A 56	大阪毎日新聞 第2号外	1932	昭和七年	2	5	大阪毎日新聞社	新聞	総攻撃第一日の上海 奮	二日 本社特派員 撮影。 (写真中心)
2131	A 57	大阪毎日新聞 号外	1932	昭和七年	2	6	大阪毎日新聞社	新聞	ハルピン全く我手に帰す 皇軍の歴史的入城 佛国の重要提案	在留邦人相擁して感泣、露(ロシア)人男女の大歓 迎。
2132	A 58	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	2	6	大阪朝日新聞社	新聞	凄壮なる市街戦続く上海	天通庵路の大激戦で 敵陣に手榴弾投下。 (裏面写真中心)
2133	A 59	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	5	1	大阪朝日新聞社	新聞	上海の爆弾変事	四月二十九日上海新公園にて本社特派員撮影。 (写真中心)
2134	A 60	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	10	2	大阪朝日新聞社	新聞	聯盟報告書公表された 十項目の解決原則	東三省に特別行政設定のため 日満支三国代表の 諮
2135	A 61	大阪朝日新聞 号外	1932	昭和七年	11	21	大阪朝日新聞社	新聞	公表された我意見書(要 領)正文	報告書の錯誤を正し 聯盟に指針を教示す、重ね て我
2136	A 62	大阪朝日新聞 号外	1933	昭和八年	1	7	大阪朝日新聞社	新聞	皇軍・山海關で大激戦	戦禍の山海關に皇軍万歳の叫び。 (写真中心)

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2137	A 63	大阪朝日新聞号外	1933	昭和八年	2	22	大阪朝日新聞社	新聞	熱河の戦機熟し日満軍の	聯盟脱退を前に国民の覚悟を促す。(写真中心)
2138	A 64	大阪朝日新聞号外	1933	昭和八年	2	25	大阪朝日新聞社	新聞	日満軍疾風の如く熱河討伐	北部戦線 敵の根拠開魯占拠 茂木部隊入場 南部戦線 忽ち北票を占拠入城 早川先頭部隊の殊
2139	A 65	大阪朝日新聞号外	1933	昭和八年	2	26	大阪朝日新聞社	新聞	わが陳述書全文 けふ外務省より公表	ジュネーブの帝国代表部が聯盟事務局に提出。二十六日午後七時(日本時間)公表
2140	A 66	大阪朝日新聞号外	1933	昭和八年	3	1	大阪朝日新聞社	新聞	皇軍堂々朝陽に入城す天津方面の支那軍 積極戦備	藤本・和田両特派員撮影 錦州より本社機空輸。熱河の敗報に狼狽。(写真中心)
2141	A 67	大阪朝日新聞号外	1933	昭和八年	3	5	大阪朝日新聞社	新聞	赤峰・凌源に皇軍入城の壮観 アメリカ遂に金禁輸不可避か	本社特派員撮影 五日錦州大阪間空輸。 休日明けをまって 各方面で観測さる。(写真中心)
2142	A 68	大阪朝日新聞号外	1934	昭和九年	3	1	大阪朝日新聞社	新聞	満州帝国晴れの大典	角野・井上・蔵居三特派員撮影 新京・大阪間空輸 本社機夜間大空輸 海峡突破 民間航空界空前の壮挙!(写真中心)
2143	A 69	大阪朝日新聞号外	1934	昭和九年	3	2	大阪朝日新聞社	新聞	満州国皇帝・登極の盛儀 第二報	登極式から御帰還の新皇帝の御英姿。(写真中心)
2144	A 70	大阪朝日新聞号外	1934	昭和九年	6	6	大阪朝日新聞社	新聞	御名代宮殿下大連に御上	鈴木特派員謹写 本社新鋭C5型機 大連から4時間
2145	A 71	大阪朝日新聞号外	1934	昭和九年	6	7	大阪朝日新聞社	新聞	御名代宮殿下・康德皇帝と御握手	新京驛頭の歴史的御交歓 新京・大阪間空輸。(写真中心)
2146	A 72	大阪朝日新聞号外	1934	昭和九年	6	9	大阪朝日新聞社	新聞	御名代宮殿下奉迎観兵式	新京大阪間 本社ブス・モス(de Havilland Puss Moth)機空輸 鈴木・小久保両特派員謹写。(写真)
2147	A 73	大阪朝日新聞第3号外	1936	昭和十一年	2	27	大阪朝日新聞社	新聞	戒厳令下の帝都警備	高橋前蔵相逝去す。(二・二六事件)(写真中心)
2148	A 74	大阪朝日新聞名古屋号外	1936	昭和十一年	3	22	大阪朝日新聞社	新聞	二・二六事件 帝都の四日	岡田さんは斯くして救はれた、運を委せた二大芝居 両秘書と三憲兵 首相脱出を密議、焼香の筋書案
2149	J 1	大阪朝日新聞13-16面	1931	昭和六年	11	3	朝日新聞社	新聞	地図を開いて一目でわかる日支の経済関係 満蒙および支那本土大地図	満洲と我国との関係は極めて重要であるが、向う見ずの支那の攻撃的態度によって満洲事変をひき起すに至り、その解決の如何は、わが国にとって非常に重要である。… 日支経済関係の説明記事と一面大地図
2150	J 2	大阪朝日新聞13-16面	1931	昭和六年	11	5	朝日新聞社	新聞	大阪城天守閣再建 新公園竣工記念号	全頁大阪城関連記事 最終ページは、秀吉の伝記に結び付けた広告。
2151	J 3	大阪朝日新聞13-16面	1931	昭和六年	12	19	朝日新聞社	新聞	「空中の死線」を越えた十一勇士の体験を聴く 飛行将校座談会 信念の人「本庄將軍」陣中にて会見	想像を絶する寒さの中の苦労話 飛行中敵弾に打たれた時の様子 等 「日本の宣伝下手」「従軍志願の血判書」「支那農村の不作」を語る
2152	J 4	大阪朝日新聞5-8面	1931	昭和六年	12	21	朝日新聞社	新聞	多門嫩江(のんこう)部隊奮戦記「長谷部旅団長の陣中日誌」 銃後に躍る	嫩江、大興、三間房の戦闘にかかわった多門嫩江部隊の激戦の状況を詳しく記した日誌を載せている。(多門は師団長の名前。) 部隊全滅の危機を救う伝書鳩・軍用犬の活躍。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2153	J	5 大阪朝日新聞 京都版第二 13-16面	1931	昭和6年	12	24	朝日新聞社	新聞	忠勤無比の物言はぬ戦友 わが看護婦の優しい人間愛	極寒の満州で人間と共に行動し、活躍している軍馬をたたえている。 支那兵にも手厚い看護「神様のようです」と感謝の涙を流す。
2154	J	6 大阪朝日新聞 21・22面	1932	昭和7年	1	1	朝日新聞社	新聞	遼西進撃の我軍の活躍 日章旗を掲げ我軍の入場を歓迎	一面写真 満州の平和を乱す錦州軍を一掃すべく前衛隊として進発した我軍は溝(こう)幫(ほう)子を31日午後1時25分占拠した。(溝幫子は地名。)
2155	J	7 大阪朝日新聞 第一 1-4面	1932	昭和7年	1	1	朝日新聞社大阪朝	新聞	昭和7年を迎えて 満州より故国の人々へ	社説と写真 関東軍司令官・独立守備隊司令官からのメッセージと写真
2156	J	8 大阪朝日新聞 付録 1-2面	1932	昭和7年	1	3	朝日新聞社	新聞	専門家も驚く近代式の防備 我軍遂に錦州に迫る	錦州軍の陣地は25線に及び近代陣地構築法によって作られており、いかに学良が東北四省を回復せんと焦慮していたかを証するに余りある。 紙面全面写真(6枚)
2157	J	9 大阪朝日新聞 5-8面	1932	昭和7年	1	11	朝日新聞社	新聞	銃火の影に描く陣中記録 渦巻く満州事変-陣中にて片倉参謀手記- 陣中八人衆-若松〇隊丘上の手記-	夜半の幕僚会議・満州の救世主など満州事変の当初より今日まで、その渦中において描かれた貴重な軍事文献である。一般の読者に熱読(ねつとく)・味読(みとく)を求む。 満洲の荒野に転戦して輝かしい武勲をたてた兵士諸君が、陣中筆をとって初陣の戦闘を語り、悲壮な戦友の戦死を語る。砲煙の中より生れた小品は読者を感激させるに違いない。
2158	J	10 大阪朝日新聞 1-8面 こども向け?	1932	昭和7年	1	24	朝日新聞社	新聞	在満将士慰問生徒作品 特集号	「シナノヘイタイヲシカツテクダサイ」「大君の御為に」「千人針」など全国の小学生から募集した満洲の兵士に送る慰問文の特集。絵もある。
2159	J	11 大阪朝日新聞 5-8面	1932	昭和7年	2	3	朝日新聞社	新聞	全米の耳目今や上海事件に集中。 経済封鎖に反対 総選挙!各府県の形勢	アメリカ大統領は自国民の安全に頗る(すこぶる)痛心している…。アメリカ兵の上海駐留は日米開戦を誘発する恐れがあるから、アメリカはこの紛争の圏外にいるべし。 イギリスの保守党機関紙モーニング・ポスト紙2日社説「対日経済封鎖は戦争を意味するものである」。 不景気による運動資金難で前回よりも出足鈍し。
2160	J	12 大阪朝日新聞 5-8面	1932	昭和7年	2	4	朝日新聞社	新聞	上海事件早わかり 支那本部時局地図	遂に日支の大衝突。上海市長に対し四項目の抗議要求。 紙面全面大地図。
2161	J	13 大阪朝日新聞 3-6面	1932	昭和7年	9	14	朝日新聞社	新聞	栄光輝く満洲国承認 満洲国の財政状態 満洲事変ここに一周年	完全独立国として全世界に躍り出る。 早くも剰余二千余万元。 わが日本の承認で国威更に加わる。
2162	J	14 大阪朝日新聞 第二夕刊 3-6面	1932	昭和7年	9	16	朝日新聞社	新聞	慶び溢るる日満国交開始 輝く両国旗の波、全満州	日満議定書の全文。 午前九時十分、満洲国承認の一報が伝えられるや、全満洲は歓喜に包まれた。
2163	J	15 大阪朝日新聞 3-6面	1932	昭和7年	10	9	朝日新聞社	新聞	待望の国立公園誕生	東半球の大風景国日本に、国民待望の国立公園がついに産声を上げる時が来た。世界に誇る12名勝。全頁(4ページ)国立公園関連記事と写真。
2164	J	16 大阪朝日新聞 1-4面	1932	昭和7年	11	9	朝日新聞社	新聞	陸軍特別大演習 グラビアセクション	1~3ページ 演習の写真。 (4ページ目は、三越の通販。)

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2165	J	17 大阪朝日新聞 5-8面	1932	昭和7年	11	19	朝日新聞社	新聞	血涙で綴った満洲里籠 城日記	満州事変当初より、監禁の邦人救出までの全貌を 詳述した日記(9月27日~10月23日)
2166	J	18 大阪朝日新聞 夕刊 3-4面	1932	昭和7年	12	17	朝日新聞社	新聞	「われ等の全権」連盟に 奮闘	ゼネヴァ(ジュネーブ)での国際連盟総会に出席し た日本代表団の活躍をたたえる写真(紙面一面掲)
2167	J	19 大阪朝日新聞 附録	1933	昭和8年	2	18	朝日新聞社	新聞	国際連盟総会報告書全 文 外務省より公表 不 法極まる結論と勧告	満洲に対する主権は支那に属することを思ひ総会 は日本軍隊の撤収方を勧告す。
2168	J	20 大阪朝日新聞 3-6面	1933	昭和8年	3	2	朝日新聞社	新聞	空に地に皇軍討熱の大 工作 皇軍熱河の半ばを席卷	朝陽附近で奮闘する日本軍を撮った写真7枚 東熱河の翼陣:1週間にわたる空軍決死の大活躍。 (熱河省は、中華民国・満洲国・中華人民共和国に かつて存在した省。省都は承德市。)
2169	J	21 大阪朝日新聞 1-4面	1933	昭和8年	3	7	朝日新聞社	新聞	戦史に輝く皇軍の承德入 城 米国の「恐慌」議会9日召 集に決る	皇軍の承德入城を伝える写真(1面・2面) 新大統領ルーズヴェルト氏は就任早々切迫する金 融恐慌に対処すべく、9日臨時議会を召集するこ とを決定した。
2170	J	22 大阪朝日新聞 3・4・9・10面	1933	昭和8年	3	13	朝日新聞社	新聞	世界を震蕩した米国の金 融恐慌	アメリカ経済界が三月六日から九日まで真暗やみと なった。このアメリカ恐慌はアメリカだけの騒ぎで ない。影響は全世界に伝わり…
2171	J	23 大阪朝日新聞 5-8面	1933	昭和8年	3	15	朝日新聞社	新聞	空中輸送隊・輝やく偉勳	驚異的な皇軍の作戦を助けて、偵察に、連絡に、食 料空輸に縦横に活躍する関東軍空中輸送隊
2172	J	24 大阪朝日新聞 夕刊 3-6面	1933	昭和8年	3	18	朝日新聞社	新聞	軍機燦然・古北口に輝く 嘘八百の宣伝・呆れた支 那の裏表	古北口占據(せんきよ)の様子を伝える写真多数 捕虜数千・飛行機は毎日射落とす…と
2173	J	25 大阪朝日新聞 5-8面	1933	昭和8年	8	6	朝日新聞社	新聞	新南群島画報「仏国に先 んずる邦人先占の確証」 満蒙建設の大業成る。 着々あがる政治、経済的 実効	1面全部新南群島を紹介している写真11枚と島の 位置を示した地図。 満洲事変の軍事行動も一段落し、今後は産業開発 に努力すべき時期に入った。…
2174	J	26 大阪朝日新聞 グラビアセクショ ン(グラヴィア・セ クション)第2号	1934	昭和9年	3	1	朝日新聞社	新聞	グラビアセクション 弘法 大師大遠忌 今日いよいよ満洲新帝 国実現	弘法大師千百年の大遠忌が3月21日高野山で厳修 される等、春を伝えるグラビア写真6枚 帝都新京を写した航空写真他11枚 第4面は、大丸の通販。
2175	J	27 大阪朝日新聞 グラビアセクショ ン第16号	1935	昭和10年	3	1	朝日新聞社	新聞	思い起こす日露の役(え き)	1~2ページ日露戦争当時の記録写真 3ページは 時の話題を伝える写真 第4面は、大丸の通販。
2176	J	28 大阪朝日新聞 1・2・11・12面	1936	昭和11年	2	27	朝日新聞社	新聞	帝都に空前の大凶変-昨 暁突如青年将校ら重臣 を一斉襲撃	首相官邸岡田首相即死… 帝都に戦時警備令発 令。 二二六事件を伝える
2177	J	29 大阪朝日新聞 1・2・11・12面	1936	昭和11年	2	28	朝日新聞社	新聞	近在部隊も到着 帝都平 穩、変化なし 高橋是清翁の一代を偲	二二六事件の続報。デマに惑わされないように。 事件で死亡した高橋是清の経歴。
2178	J	30 大阪朝日新聞 夕刊 1-4面	1936	昭和11年	2	28	朝日新聞社	新聞	警戒線も撤去され、平穩 な帝都の姿 治安は回復 された。	二二六事件の続報。 二七日午前三時半帝都に戒 厳令が敷かれたが、警視庁にも動く人影。――

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2179	J 31	大阪朝日新聞 夕刊 1-4面	1936	昭和11年	2	29	朝日新聞社	新聞	全国の治安状態平穩 事態収拾に関して緊急臨 時閣議開かる 戒厳令下の帝都は飛雪 紛々 思ひがけなかった 金曜日の半ドン	各閣僚は緊急臨時閣議を開き時局收拾に関し重要 協議を遂げた。 戒厳令下二日目丸之内のビル街は早引けする会 社・銀行もあり、小学校は休校…治安は完全に維 持
2180	J 32	大阪朝日新聞 1・2・11・12面	1936	昭和11年	3	1	朝日新聞社	新聞	岡田首相は無事存命 松尾大佐を語る親友	今回の事件で岡田首相は遭難と伝えられてゐた が、遭難者は義弟の松尾大佐であり、首相は安全 に生存。 一朝有事の際は平素から首相の身代わりになる決 心。
2181	J 33	大阪朝日新聞 夕刊 第三版 1-4面	1936	昭和11年	3	1	朝日新聞社	新聞	兵火を交えず遂に鎮静 に帰す。治安ここに全く 回復。 事態の遷延を許さず。武 力行使を決意す。	「叛乱部隊は二十九日をもってその全部の帰順を 終りこゝに全く鎮定を見るにいたれり」戒厳司令部 発表 皇軍互いに相撃つが如きは皇国精神上洵(まこと)
2182	J 34	大阪朝日新聞 17・18面	1936	昭和11年	3	23	朝日新聞社	新聞	躍進東海の華南博開會 迫る 萬華開く“岐阜躍 進博” 海港都に文化の精華 国	皆さん！春の遠足には、ぜひ岐阜へいらっしやい 学童へ呼び掛けた市長さん。 開會迫る四日市大博覧会の各館について紹介しよ
2183	J 35	大阪朝日新聞 1-4面	1936	昭和11年	9	30	朝日新聞社	新聞	ステーブル・ファイバー特 集号 漫画”ステーブル・ ファイバー物語” ステーブル・ファイバー展 覧會開催	ステーブル・ファイバーとは に始まって日本でスフ が生産されるまでの経緯を分り易く漫画で説明 展覧會開催案内のグラビア写真(1ページ全部)
2184	J 36	大阪朝日新聞 1・2・5・6・11・12・ 15・16面	1937	昭和12年	6	1	朝日新聞社	新聞	挙国一致へ！拍車の総 辞職 (5面は尾張版)	林内閣は三十一日突如総辞職を決行。後継内閣首 班は文官説が有力。
2185	J 37	大阪朝日新聞 1・2・15・16面	1937	昭和12年	6	2	朝日新聞社	新聞	けふ中に親任式か 組閣 工作極めて順調 新内閣と海外の論評	近衛公は組閣の大命を拝して宮中を退下するや直 ちに組閣に着手。 支那側近衛内閣を歓迎、協調外交に期待。
2186	J 38	大阪朝日新聞 5・6・11・12面	1938	昭和13年	6	10	朝日新聞社	新聞	ブック・レビュー特集 深井 英五氏著「金本位制離脱 後の通貨政策」-評者飯 島幡司 谷川徹三著「神 話と科学」-評者川上徹	新刊書数点の紹介と論評。4頁のうち3頁は広告と 娯楽版。
2187	J 39	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	8	13	朝日新聞社	新聞	思い起す渡洋爆撃あす 二周年	世界戦史未曾有の壮挙である第一回渡洋爆撃の 日、八月十四日がめぐり来った。渡洋爆撃二周年 の感懐を交々(こもごも)語る。
2188	J 40	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	8	20	朝日新聞社	新聞	ソ連、極東軍備の増強に 狂奔 満ソ国境に示威演 習 お化粧もやめてこの日娛 楽も慎む	共産主義世界革命を支援し、場合によっては全世 界の資本主義国家を相手に戦うべき軍隊として最 近ソ連はいよいよ軍備の拡大に狂奔しつつある。 全国一斉に毎月一日を興亜奉公日と定め戦時態勢 化することになったので、愛知県でも、毎月一日県 民挙げて自しゆく生活をする通牒を發した。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2189	J 41	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	11	26	朝日新聞社	新聞	脚光を浴びる和蘭(オランダ)の栄養線「岡特派員視察記」	蘭(オランダ)領東インドは軍需原料生産地として時局化重要性を加えつつある。
2190	J 42	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	12	3	朝日新聞社	新聞	新しい支那の新しい兵器 節約限度を越るとガスをとめます	汪兆銘(おうちょうめい)氏を中心とする新中央政権下の和平健国軍は、日本式猛訓練のもと、破竹の進撃。 本格的燃料需要期に入り、大臣命令によって強制力を持つ節約方針を決定。東邦ガスもこの方針に
2191	J 43	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	12	10	朝日新聞社	新聞	皇軍入城から早くも二周年 台湾から宝船	二年前皇軍入城当時の南京は城内いたるところ廢墟と化し、居残った市民は約三十万。それが今では人口六十万、綻ぶ親日の微笑。 南の国台湾からお米・砂糖をどっさり積んだ宝船が名古屋港に入港。
2192	J 44	大阪朝日新聞 5-8面	1939	昭和14年	12	24	朝日新聞社	新聞	聖戦第四年の春近し	昨秋武漢大攻略戦を完成した皇軍は、事変第三年に入るとともにますます蔣政権討滅の師を急にして、全支各地に新作戦を展開…
2193	J 45	大阪朝日新聞 5-8面	1940	昭和15年	1	4	朝日新聞社	新聞	欧州の巨頭を語る	天才ヒットラー総統、愛想よいダラディエ氏、映画も語るチェンバレン首相。
2194	J 46	大阪朝日新聞 5・6面	1940	昭和15年	1	14	朝日新聞社	新聞	新支那中央政府愈よ(いよいよ)誕生	昨年十月以来成立を伝えられてきた中央政府も、いよいよ遠からず実現の見通しがつき、中央政府樹立工作も本格的となってきた。
2195	J 47	大阪朝日新聞 5・6面	1940	昭和15年	1	21	朝日新聞社	新聞	新支那に胎動する新しい文化 人類の敵・蚊軍の“マリアヤ攻勢”へ挑戦	日支の新たな理解のうへに築かるべき新文化は、いまだ具体的に現れてはゐないが、その萌芽は各分野に看取される。北清事変に際し、生死の間にありながらわが将兵のひとりひとりができる限り文化財の保護に注意を払った事実はわれら日本民族の誇りとせねばならない。 戦塵を潜って”蚊”を採集することすでに十五万匹以上、本格的にマリアヤと取り組んで精進を続けている医待部隊がある。
2196	J 48	大阪毎日新聞 新年号 1-4面	1932	昭和7年	1	1	大阪毎日新聞社	新聞	万里の長城に立つわが哨兵 オリンピックの春	一ページ全面見出しのグラビア写真 二・三ページ全面ロサンゼルスで開催される第十回オリンピック大会に出場する内外の選手の紹介記事と写真。
2197	J 49	読売報知 二版 1・2面	1945	昭和20年	8	8	読売新聞社	新聞	B29新型爆弾を使用 広島に小数機 相当の被害	大本営発表昭和二十年八月七日十五時卅(三十)分 一、昨八月六日広島市は敵B29少数機の攻撃により相当の被害を生じたり。二、敵は右攻撃に新型爆弾を使用せるものの如きも詳細目下調査中な
2198	B 1	名古屋新聞	1938	昭和13年	9	14	(新聞社)	新聞	支那共産党を裸にする 支那を滅ぼすものそれは“赤い手”だ。	盧溝橋事件といふ1個の小さな螢火が今日東亜の天を焦がす大火事になったのは全く共産党の「抗日の魔風によるものといはねばならぬ。
2199	B 2	名古屋新聞	1938	昭和13年	9	21		新聞	呪はれた民族 祖国なき彼等が呻きを聴け	ユダヤ王国再建設のために2千年来彼等の胸に燃ゆる復讐心。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2200	B 3	名古屋新聞	1938	昭和13年	10	8		新聞	広東は”抗日の巢”だ	広東こそ南支における援蔣の基地であり、支那共産党の根拠地であり、抗日の淵藪なのだ。広東は欧米列強の支那侵略の最初の事件であるアヘン戦争が起った土地である。
2201	B 4	名古屋新聞	1938	昭和13年	11	13		新聞	南支那の感触	南支那は、支那は支那であっても、全く民族的気質も、風習も、特に日本及び日本人に対する観念認識が相違しており、特に抗日侮日が徹底している。
2202	B 5	名古屋新聞	1938	昭和13年	11	27		新聞	古戦役座談会	国民精神作興の資に、郷土古戦場展を開いたが、非常時局下新たにそれを回顧し認識を深めることは大いに意義ある事と思ふ。
2203	B 6	名古屋新聞	1938	昭和13年	11	29		新聞	注視せよ！抗日華僑	華僑といふのは在外支那人の総称で、あらゆる職業を網羅し、その分布状態は世界的といってよく、政治への寄与においては、「華僑は革命の母である」といわれるように、支那革命は或る意味で彼らの手によってなされたものといへる。
2204	B 7	名古屋新聞	1939	昭和14年	1	24		新聞	支那人の見た支那及び支那人-林語堂-鈴木賢	支那人は個人主義の国民である。彼等にも家族性はあるが、社会性は無い。… 驚くべき個人主義。
2205	B 8	名古屋新聞	1939	昭和14年	2	28		新聞	亜細亜の敵 ユダヤ	ユダヤ民族の目指す理想は、世界を一つの国家とし、自分たちがその支配権を握らうとする世界征服の陰謀である。…
2206	B 9	名古屋新聞	1939	昭和14年	3	4		新聞	列国の建艦競争	1921年のワシントン軍縮会議以来、世界列国の海軍拡張は一定の制限を蒙(こうむ)っていたが、1935年のロンドン軍縮会議で、日本が脱退してからというもの、列国の建艦競争の現状は、恰(あた)かも世界大戦前に髣髴(ほうふつ)たるものがある。
2207	B 10	名古屋新聞	1939	昭和14年	3	7		新聞	法幣問題の分岐点 中南支輸出の賛否	中南支地区を円ブロック圏内として認めることが妥当かどうかということは、「法幣」の問題と絡んであるだけに厄介な問題である。… 勢ひここで法幣の由来および現在の状況を述べねばならない。
2208	B 11	名古屋新聞	1939	昭和14年	3	12		新聞	テロ頻発の魔境！ その指揮は誰か	上海の租界問題には、いくつもの面相がある。租界とはある一定の区域を外国人の居住及び通商のために開いたのが、慣例にもとづく権利が生じてきた。支那側の警察権も課税権もここには通用しない。…
2209	B 12	名古屋新聞	1939	昭和14年	3	14		新聞	東亜建設目ざす輸出振興総動員案(上) 満支農業特産物十品目の関税減免	名古屋中南米輸組兼欧阿近東輸組常務理事伊藤九郎氏発表 1輸出振興対策に必要な認識(1)商品価値のあるもの。(2)廉価主義の見直し。(3)乱売政策見直し。(4)不当競争、品質低下を改善すべし。 今回の措置は日満支経済ブロック強化の意図から出たもの。指定された農業特産物10品目はわが国貿易上、すべて満支からのみ輸入されるも

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2210	B	13 名古屋新聞	1939	昭和14年	8	4		新聞	職場をかく革新せよ、桐原葆見(きりはらしげみ)博士の講演	日本労働科学研究所の桐原博士は名古屋市工業報国団主催の講演会で「現状で二割増産」と題して工場主に対して講演、適材適所、休憩時間、仕事への心構え、家庭の改善を訴えた。
2211	B	14 名古屋新聞	1939	昭和14年	8	9		新聞	米国の通商条約廃棄とわが蠶糸業	本条約廃棄が日本生糸輸出に与える影響については糸価低落の動向はまぬがれないが、一般に影響は小さいとの観測が行なわれている。米国市場における日本生糸唯一の競争相手たる支那生糸が日本の支配下となって日本の独占となったこと、生糸ことに絹靴下は米国民の日用必需品となっていることがその理由である。
2212	B	15 名古屋新聞	1939	昭和14年	8	18		新聞	労働の不足と婦人の立場 最高率配当は石油精製業	雄々しく職場へ、尊し欧州大戦の教訓。労力は男女を問わず、つまり人間、婦人の奮起を望む、職場で男の代り。 昨年下半年工業会社の収益調べ。少ない親玉は電気業。金属精錬業は石油精製に次ぐ。
2213	B	16 名古屋新聞	1939	昭和14年	8	30		新聞	楽屋裏を覗く、独ソ不可侵条約、果然動くソ連極東軍	座談会「ソ連の極東移民政策をあばく」。ソ連は極東に40万の大軍を集中し、満ソ国境に4000キロのコンクリート陣地を構築すると共に、近年「極東移民政策」に努めている。これらは将来の対日満挑戦への強固な兵站基地を構築する狙いをもつ。
2214	B	17 名古屋新聞	1940	昭和15年	1	7		新聞	閉鎖された香港、要塞化の真相を衝く	欧州では独軍がポーランドに侵入したことから英仏との対立。第2次世界大戦の様相を呈してきている。欧州のこの動きを反映してか、英領香港は急速に武装強化し、香港要塞の完成に狂奔した。これは英国資産家の権益を皇軍の進出から守るためである。
2215	B	18 名古屋新聞	1940	昭和15年	1	11		新聞	200億台を突破、昨年末現在国債発行額愈(いよいよ)鉄鋼連乗出す。大陸向けの機械需給	大蔵省は国債発行現在額を発表。前年同期に比し53億余万円増加。 内地機械工業の満洲および支那大陸に対する機械の供給は大陸開発上、不可欠の要件であるため、鉄鋼連は大陸向け機械の需給幹旋に乗出すことに
2216	B	19 名古屋新聞	1940	昭和15年	1	15		新聞	“新節電”幸先よい門出。心利いた市民に市電のんびり。	日発関西給電所管内に布(し)かれた電力の制限令は戦時下産業部門への影響を慮(おもんばか)って官、産、民一丸とする努力の下に遂行された。減車の中京の成績は甲で、市民の大部分は家庭サービスを楽しむか、舗道を闊歩する歩行軍が目立って
2217	C	1 朝日新聞	1942	昭和17年	1	1	朝日新聞社	新聞	戦史に燦たり米太平洋艦隊の全滅 マニラ十里に肉薄 大戦捷に輝く新春	真珠湾頭暁の雷撃・昭和16年12月8日ハワイ真珠湾奇襲の海鷲撮影の大版写真あり。 想像絶する総合戦果を具体的に報道。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2218	C	2 朝日新聞	1942	昭和17年	1	2	朝日新聞社	新聞	米比軍全く無力化 マニラ陥落切迫す 凄烈・ハワイ大空襲実戦記 セラングル州突入・元日のマレー	比島方面 マレー方面の戦況を地図入りで伝える。 眞珠湾攻撃 一番乗り大編隊の指揮官の談話「我奇襲に成功せり」。
2219	C	3 朝日新聞	1942	昭和17年	1	3	朝日新聞社	新聞	南北から我機甲部隊猛進 マニラ二里半に殺到 敵軍の大半潰滅 マレー戦線 大詔奉戴日(毎月8日)設定	比島戦線のマニラ包囲完成 無血占領に近い状況を伝える。 マレー戦線で敵軍の大半が潰滅し南部攻略態勢ができた。 政府は大東亜戦争推進国民運動の大進展を期して新たに大詔奉戴日を設定。
2220	C	4 朝日新聞	1942	昭和17年	1	4	朝日新聞社	新聞	比島首都マニラを完全占領 東西呼应し快速進撃 新嘉坡、初の昼間爆撃	猛炎の下・堂々無血入城。 陸海の荒鷲、残敵爆撃の模様など地図入りで報道。 日本空軍の攻撃の様子を速報。
2221	C	5 朝日新聞	1942	昭和17年	7	2	朝日新聞社	新聞	アラメイン突破東進・英艦隊ア港を逃出す 埃及の独伊軍一瀉千里 支那事変勃発第五周年を迎えて	独伊快速部隊が英軍第二陣地を突破しアレクサンドリア西方120キロの地点に進出。 大本営陸軍報道部長谷萩大佐がラジオ放送で「大東亜戦要域を先占、蒋介石軍の死命制す」と第一声。
2222	C	6 朝日新聞	1942	昭和17年	7	4	朝日新聞社	新聞	西亜への攻勢も自由・枢軸今や絶対的有利 スエズ攻略時間の問題 ナイル三角州近く激戦	ソ連軍の黒海における制海権が事実上崩壊。 北アフリカ戦局は決定的段階に入る・独伊、漸次カイロを陥落させる模様。
2223	C	7 朝日新聞	1942	昭和17年	7	5	朝日新聞社	新聞	独ソ戦線・ハンガリー軍従軍記 開戦初めての最激戦 独軍、クルクスで白兵戦	ソ連は最年長60才までも動員、銃剣を帯びず棍棒一本を持つのみ、古ぼけた外套に厚い頭巾で見るからに鈍重。 旧ポーランド領のユダヤ人部落の悲惨な状況。
2224	C	8 朝日新聞	1942	昭和17年	7	6	朝日新聞社	新聞	英、必死の対印懐柔策 三百キロ防禦線を突破 カイロ、ア港を猛爆撃	英国は要職にインド人を任命し親英の気運を策す。 独軍、ドン河へ急進。 独空軍はスエズ運河地帯を猛攻撃。
2225	C	9 朝日新聞	1942	昭和17年	7	10	朝日新聞社	新聞	国府の新国民運動 ソ連防衛線に深き楔 米英の援ソ危殆(きたい)	国民政府は大東亜戦争に積極協力するため国内革新に邁進。 独、予備部隊をも繰出しモスクワに迫る。 独空軍、北氷洋上の米英大輸送船団を撃滅。
2226	C	10 朝日新聞	1942	昭和17年	7	18	朝日新聞社	新聞	翼賛会の実践態勢成る 新字音假名遣と左書	中央協力会議、翼賛壮年団、翼賛調査会は本部諸機構を全面刷新。 国語審議会は字音假名整理案、漢字の左書案を満場一致可決。
2227	C	11 朝日新聞	1942	昭和17年	7	22	朝日新聞社	新聞	大元帥陛下宇都宮飛行場に行幸 ロストフ猛火に包まる	昭和天皇、落下傘兵器を天覧、写真あり。 独軍はスターリングラード西方80キロ地点に到達し敗走ソ連軍の退路遮断。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2228	C 12	朝日新聞	1942	昭和17年	7	28	朝日新聞社	新聞	日独伊が圧倒的戦捷 大東亜戦争完遂国民総 力結集大講演会	東条首相演説で今や直接協力大進撃戦段階、国内態勢強化の五綱強調・大政翼賛会翼賛政治会共同主催で翼賛へ死生超越、翼賛会精神を説く。
2229	C 13	朝日新聞	1942	昭和17年	8	4	朝日新聞社	新聞	遂昌の頑敵を撃破猛進 北コーカサス深く進攻	中国浙江省松陽縣城の攻略切迫。 独軍、クワン河北部地区猛進。
2230	C 14	朝日新聞	1942	昭和17年	8	6	朝日新聞社	新聞	名目のみの印度独立 独軍クロボトキン突入	帝国断じて許容せず、英勢力を完全排除せよ。 ドイツ軍コーカサスに大包围鉄環。
2231	C 15	朝日新聞	1942	昭和17年	8	14	朝日新聞社	新聞	朝井・板家両小隊に感状 婦女団、騎兵隊を阻止	マレーに壮烈無比の激戦、殊勲上聞に達し、最高指揮官山下奉文より感状。 印度擾乱(じょうらん)、拡大の一途。
2232	C 16	朝日新聞	1942	昭和17年	9	30	朝日新聞社	新聞	一億総力を持久戦突破へ 西亜の情勢逼迫	第三回中央協力会終る 東条首相指導者の熱意を要望。 米英必死の戦線建直し。
2233	C 17	朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	9	30	朝日新聞社	新聞	長期戦完遂の決意を昂揚 恐れず米の軍拡、中央 協力会議最終日	奥村次長「思想戦に勝ち抜かん」強調。 柏原部長「気魂で勝ち抜け」。
2234	C 18	朝日新聞 (東京本社)	1942	昭和17年	10	1	朝日新聞社	新聞	米、二特使頻りに策動 「労務報告会」を結成 建設途上のバルカン諸 国	アメリカ、狡猾外交で対ソ懐柔。 日雇労働者の統制確立。 独(ドイツ)経済力の浸透著しい、政治的新秩序は未完成。
2235	C 19	朝日新聞 (大阪本社)	1942	昭和17年	10	1	朝日新聞社	新聞	重要物資第三・四半期輸 送計画成る バルカンの新秩序建設	早場米、石炭等に重点、油脂、酒、煙草、軽金属など追加。 ドイツ金融、技術の進出、各国戦争遂行に積極的協力。
2236	C 20	朝日新聞 夕刊 (東京本社)	1942	昭和17年	10	1	朝日新聞社	新聞	我が潜水艦、独海軍基地へ 獨軍、2市攻撃を強化	”誇らぬ海の英雄 雄々しき壮途へ！”写真あり。 スターリングラード攻防戦でドイツ軍、北方地区へ着々食い込む。
2237	C 21	朝日新聞	1942	昭和17年	10	2	朝日新聞社	新聞	虎視眈々・米空軍東京空 襲を企図 危機を孕む西北地区	綿密なる調査を終了し模型で東京爆撃の猛訓練、I・工場、II・防火区、III・爆弾の地図あり。 中国重慶政権支援ルートは日本の思うようにはかどらない。
2238	C 22	朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	10	2	朝日新聞社	新聞	獨総統久しぶりの獅子 吼 皇帝陛下の御臨仰ぎ協 和会全連けふ開く	旧世界の顛覆へ枢軸驕進、広大占領地の組織化が順調とヒトラー演説。 満州国民の総力を発揮するため満州国皇帝臨席。
2239	C 23	朝日新聞	1942	昭和17年	10	9	朝日新聞社	新聞	生産戦にも勝鬨揚げよ、 平出大佐名古屋で講演 節米を更に強化 2市に焼夷弾雨下	”日本こそ最強の敵手”米鋒先を欧州から東亜へ。 麦、芋等総合配給、外食制改正。 ・スターリングラード激戦、クリミアから独軍増援。
2240	C 24	朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	10	10	朝日新聞社	新聞	忠魂四柱、沈黙の凱旋 戦力の源は大和魂、企 画院総裁鈴木貞一氏寄 稿	シドニー港特殊潜航艇の英雄四柱、横浜に還る、写真あり。 大東亜戦争完遂のため生産拡充の根本理念、全国民の奮起を要請。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2241	C	25 朝日新聞	1942	昭和17年	10	25	朝日新聞社	新聞	ソ英、肚の探合ひ激化 新副業二百種を選定	第二戦線行詰りとルドルフ・ヘス(前総統代理)問題、疑惑、在英和平派にも及ぶ。 傷痕軍人、遺家族へ優先奨励。
2242	C	26 朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	10	27	朝日新聞社	新聞	遅しき“満州の鐵鉄”米国の“生拵”に対抗 ソ連の反撃見込なし	満州本溪湖の第二鑄鋳炉火入式、奏づ製鐵躍進譜。 東部戦線の膠着、独ソ対陣は英本土空襲とエジプト戦線の危機を招く。
2243	C	27 朝日新聞	1942	昭和17年	11	5	朝日新聞社	新聞	総額四十億圓を突破 生拵とインフレ防止へ 青果物配給改善の具体的意見決定	本年第二四半期の國民貯蓄額、二百三十億へ更に緊張を要望。 銃後國民の任務、経済学博士太田正孝氏貯蓄を語る。 経済議員聯盟乗出す。
2244	C	28 朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	11	7	朝日新聞社	新聞	ソロモンの情勢微妙 北阿で激戦展開	挙国備へん米の反攻、酔ふ勿れ南太平洋の戦捷。 エジプト戦線で英軍攻勢、獨伊枢軸軍第二防禦線へ後退。
2245	C	29 朝日新聞	1942	昭和17年	11	8	朝日新聞社	新聞	敵の通商破壊戦封殺 重要鋳工業の増産へ 生産戦 重大の秋	潜水艦廿一隻を撃沈、船舶三十四隻を屠る。 生産能率基準を設定、商工相発表。 勝利の鍵は“精神・技術・機械”商工大臣岸信介朝日新聞社へ寄稿。
2246	C	30 朝日新聞	1942	昭和17年	11	9	朝日新聞社	新聞	先づ国府政治力強化、 支那生産力の拡充へ 独ソ戦五百日、赤軍撃滅千四百万	青木大東亜相、重光駐支大使要談の核心。 獨軍、コーカサス油田などソ連の資源地帯を悉く掌握。
2247	C	31 朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	11	10	朝日新聞社	新聞	仏国遂に対米断交 撃碎(碎)す百五十万	佛軍はモロッコ カサブランカ沖合で聯合軍と海戦、 北アフリカへの米軍侵入に憤激。 無限の埋蔵地下資源を有する山西省に輝く綜合戦果。
2248	C	32 朝日新聞	1942	昭和17年	11	12	朝日新聞社	新聞	皇軍北辺の護り完璧 モロッコ激戦続く	敵機三十二を撃墜す、空中戦実に八十一回、アリュウシャン方面の戦果、厳寒衝く敢闘精神。 佛軍の頑強な応酬に侵入米軍の後援続かず。
2249	C	33 朝日新聞	1942	昭和17年	11	14	朝日新聞社	新聞	便衣・敵の真只中へ 地方長官会議、国家戦力を躍進 一大決戦に備へん	北支の敵共産軍を攻撃のため皇軍は便衣挺身隊を組織、奇智と大胆で共産軍を翻弄す。 戦力の根底は大和魂、利潤追求観念を排す。
2250	C	34 朝日新聞 夕刊	1942	昭和17年	11	14	朝日新聞社	新聞	完勝への地方態勢強化 けふ地方長官会議開く 佛民衆歓迎・獨軍の進駐	“必勝素地を全幅活用・所信に即時邁進せよ”東條首相、烈々の訓示、写真あり。 獨軍の南佛進駐は極めて順調に進捗。
2251	C	35 朝日新聞	1942	昭和17年	11	23	朝日新聞社	新聞	けふ全国「新穀感謝」の日 農民、努力の結晶 太平洋は「大日本洋」	宮中、新嘗祭の厳儀、聖上(天皇)、今夜半にかけて御親祭。 農作物増産へ更に創意と工夫を、井野農相朝日新聞へ寄稿。 “尊皇攘夷の血戦へ・青年よ起て”奥村情報局次長講演。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2252	C 36	朝日新聞	1942	昭和17年	12	2	朝日新聞社	新聞	産業経済の行政事務・二百八件簡素化決定 モレスビー連爆	翼政会は政府の行政簡素化に即応して行政事務簡捷化の具体案を作成、閣議で決定。 海軍航空部隊はニューギニアの敵空軍基地モレスビーを夜襲、飛行場炎上。
2253	D 1	朝日新聞	1943	昭和十八年	1	1	朝日新聞社	新聞	大元帥陛下御躬(み?)ら民一億御統率の畏さ 困苦、欠乏を克服し挙国決戦の門出	天皇陛下、皇后陛下、皇太后陛下、皇太子殿下、義宮殿下の近況を報道。 銘記せよソロモンの激闘、ガダルカナル島苦戦、皇軍の武威燦然、写真あり。
2254	D 2	朝日新聞	1943	昭和十八年	1	2	朝日新聞社	新聞	比島作戦に武功戦捷の決定要素 ソロモンの勝敗にあり 必勝の経済戦略 節約こそ勝利の捷路	陸軍省は三個人の感状が上聞に達したことを発表。 ガダルカナル島奮戦、ソロモン群島への米軍攻撃は激烈。 陸軍省戦備課長岡田陸軍大佐、銃後の汗は前線の
2255	D 3	朝日新聞	1943	昭和十八年	1	4	朝日新聞社	新聞	大東亜戦 海底進軍譜 敵飛行場を砲撃 江西南部を初爆撃	日本軍潜水艦 ソロモン海に勇躍、大胆にも月下に浮上し攻撃。 日本の荒鷲部隊が大編隊で中国江西省南部と福建省西部を空爆。
2256	D 4	朝日新聞	1943	昭和十八年	2	7	朝日新聞社	新聞	首相指示権さらに明確化 一般産業停止も可能 石油に懸念なし	指示に“弾力性” 監督権限、原則は大臣に、生産促進など広範囲に。 南方石油に万全の措置ありと岸信介商相言明。
2257	D 5	朝日新聞	1943	昭和十八年	10	26	朝日新聞社	新聞	けふ第八十三臨時議会開く 工業学校を大拡充	男子商業学校は全面的に転換、来年度実施、教育戦時非常措置方策、文部省発表。
2258	D 6	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	10	26	朝日新聞社	新聞	ビルマ国境敵拠点爆砕 臨時議会けふ首相歴史的演説 研究機関は存続 兵はもういらぬ飛行機と火器を	ビルマ西部タンブル兵舎、倉庫大火災。 国内態勢の徹底刷新を強調。 来月中に具体方針明示、私大整理について文相と質疑応答。 南太平洋・この声を聴け 本社四特派員の体験談。
2259	D 7	朝日新聞	1943	昭和十八年	10	28	朝日新聞社	新聞	平等互惠の原則堅持 重要会議案けふ成立 四日間に来襲六百機	予算総会で外相が共栄圏理念言明。 完勝戦費と大幅増税、直接税中心に間接税を配置。 ブーゲンビル島皇軍勇戦敵機三十六撃墜。
2260	D 8	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	10	28	朝日新聞社	新聞	大東亜総蹶起案可決 臨時議会の掉尾を飾る 軍需の生産体制刷新 日満食糧需給に協力	陸海軍機の規格統一、軍需省の専管範囲を明確化。 議会の論議で明確化。 食糧の生産、供出にも実効を期す、首相答弁。
2261	D 9	朝日新聞	1943	昭和十八年	10	29	朝日新聞社	新聞	敵モノ島(ブインの南方) 上陸 人口疎開都市 国民学校の軍教強化	日本軍海鷲上陸地点の艦船猛爆。 京浜、阪神、中京、北九州地帯の人口疎開を内務省明示。 配属将校に代る者の派遣考慮、那須兵務局長言

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2262	D 10	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	10	29	朝日新聞社	新聞	戦意昂揚・臨時議会茲に 終幕 強靱な日本家屋 甘藷の供出	態勢確立へ巨歩、政府果敢の実行要望。 消防防火に力を注げ、安藤内相強調。 総生産量の四割以内、山崎農相貴族院予算総会 で答弁。
2263	D 11	朝日新聞	1943	昭和十八年	10	30	朝日新聞社	新聞	海軍守備隊地上砲火の 威力 麦類価格大巾引上げ、 増産意欲の昂揚へ	ソロモン戦線のブーゲンビル島南のバラレ島に敵 機七十九機、来襲機の三分の一撃墜。 小麦六十キロ入り一俵当り廿円、価格は来年出 廻りに正式決定。
2264	D 12	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	10	30	朝日新聞社	新聞	日華基本条約改訂 西北開発未(いまだ)し	実現期いよいよ切迫す。 ただ抗戦に焦る新疆省、西北支那の民族問題、進 捗せぬ移民問題、産業開発状況解説。
2265	D 13	朝日新聞	1943	昭和十八年	10	31	朝日新聞社	新聞	永久友好の基本を確約 日華新同盟条約締結 日本国中華民国間同盟 条約 あらゆる援助を惜しまず 征戦の完遂へ共に進ま	南京で日華両国の善隣友好を期し歴史的条約に調 印。 逐次既成事項を調整、戦争状態終了後は撤兵。 日華新条約に関し東條首相談話発表。
2266	D 14	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	1	朝日新聞社	新聞	新行政機構けふ発足	飛躍的戦力増強へ、創設三省(軍需省、運輸通 信省、農商省)いよいよ開庁、軍需省発注の一元 化、総動員基本事項移管、運輸通信省陸海運の一 元化。
2267	D 15	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	2	朝日新聞社	新聞	三相決定、親任式を御挙 行 軍需相は首相の兼摂 陣頭に立ち一死奉公 二十六機を撃墜破	創設三省堂々の進発、各初代大臣等の顔写真あ り。 東条軍需相開庁式に訓示。 ニューブリテン島ラバウル方面で海軍戦闘機は敵
2268	D 16	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	3	朝日新聞社	新聞	けふ明治節 敵損失四千八百	宮中で厳かな御祭儀、午前九時一億明治神宮遥 拝。 ニューギニア、雲南戦果、大挙出撃せんとする陸 驚精鋭「呑龍」爆撃隊の写真あり。
2269	D 17	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	4	朝日新聞社	新聞	明治神宮国民練成全国 大会 掃共戦果拡大 敵新偵機忽ち撃破	高松総裁宮殿下台覧、輝く帝都の必勝健民総巻 写真あり。 中国山西省西北部へ進攻中、六千九百名撃破。 雨季明けのビルマ戦線ラングーンに侵入。
2270	D 18	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	11	4	朝日新聞社	新聞	道義帝国を中核体に共 栄 五ヶ国磐石の結束 ソ連の現実主義反映	アジアのアジア完成に邁進。 欺瞞的な米英ソ会談公報、ソ連の主張に米英反論 せず。
2271	D 19	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	5	朝日新聞社	新聞	大東亜会議・帝都に開催	戦争完遂、建設戦へ結集、代表、列国首脳を網羅 日本国、中華民国、タイ国、満州国、フィリピン国、 ビルマ国の代表名と写真あり。
2272	D 20	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	11	5	朝日新聞社	新聞	東条首相重要な発言 吸血鬼米英の魔手	大東亜会議けふ開幕、大東亜各国代表一堂に会 す、写真あり。 支那の新植民地化へ、空手形「排斥法」の撤廃、支 那人排斥法撤廃の欺瞞。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2273	D 21	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	6	朝日新聞社	新聞	南太平洋・陸海空に大撃滅戦、わが戦略要点への敵正面侵攻作戦を激撃緊張の大東亜会議	巡洋艦九隻撃沈破、ラバウル・ブカ上空敵機二五〇撃墜。 共同使命の完遂へ！東条首相堂々所信表明、各国代表決意表明。
2274	D 22	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	11	6	朝日新聞社	新聞	「大東亜共同宣言」を可決、十億の総意ここに凝集 空母二、巡艦四轟沈	格調高き各代表演説、東亜保衛の決意を吐露、大東亜会議第二日の記念撮影、集合写真あり。 ブーゲンビル島沖航空戦大戦果。
2275	D 23	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	7	朝日新聞社	新聞	いざ十億一丸の進軍、輝く成果大東亜会議閉幕す ブーゲンビル島沖航空戦	「大東亜共同宣言」全文掲載、歴史的共同宣言成立の殺那(総員起立採択)写真あり。 薄暮を利し必殺の魚雷、海鷲十八機で轟沈・撃沈の大戦果。
2276	D 24	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	8	朝日新聞社	新聞	世界の盛儀「大東亜結集国民大会」帝都で開催	総親和の大歓声、世界に轟く正義の咆哮、見よこの盛観！日比谷の「国民大会」写真あり、必勝の確信を倍加、共栄圏一丸、敵撃砕、東条首相演説。
2277	D 25	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	10	朝日新聞社	新聞	燦たり海鷲・真珠湾以来の大戦果 米の大艦隊を潰滅す	第二次ブーゲンビル島沖航空戦、敵戦艦四隻を撃沈破 八巡洋艦以下十六席も屠る。 なほ敵艦船団猛攻中、前線の艦上にて作戦を練る古賀連合艦隊司令長官、写真あり。
2278	D 26	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	12	朝日新聞社	新聞	ソロモン海域 海鷲の偉功御嘉尚 畏し皇后陛下 大日本婦人会へ有難き御言葉 中等学生、青少年にも機甲訓練を実施	連合艦隊に勅語を賜ふ、古賀長官に初の勅語。 会員の活動を嘉せられる。 機甲化国防協会、翼賛会傘下へ。
2279	D 27	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	14	朝日新聞社	新聞	海鷲・反攻の敵艦隊をまた撃滅 海軍軍事教習強化	戦艦一空母二巡洋艦駆逐艦六、ブーゲンビル島沖で轟撃沈破、執拗 敵四度目の出撃、荒天下二回にわたる激戦。 高校・専門校にも 海軍現役武官を派遣。
2280	D 28	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	15	朝日新聞社	新聞	必死五度目の反攻を海鷲撃滅 撃墜破炎上二百余	戦艦以下五、轟撃沈破、第四次ブーゲンビル島沖航空戦、航空機さらにあらば敵一艦だに生還を許さ
2281	D 29	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	11	15	朝日新聞社	新聞	フィリピン国内体制強化、独立後一ヶ月 レバノン騒擾深刻化	自主的に積極化、来る議会で行政を刷新。 ソ連、主役者に登場、アルジェー舞台の国際劇。
2282	D 30	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	16	朝日新聞社	新聞	ブーゲンビル島沖海戦 外相、帝国不動の方針闡(せん)明 駆艦等計三隻撃沈	僅か八分で敵艦隊撃滅、間夜激撃の敵陣へ突進。 十億、一心一体の進軍、萬邦協和の大理想下に、重光外相演説要旨。 南太平洋戦線プリアタ島、トロキナ岬を猛爆。
2283	D 31	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	22	朝日新聞社	新聞	わが兵力分散を狙ひ中部太平洋出撃か わが痛打に敵の焦慮 前線に応ふるもの航空機の増産のみ	敵は敗戦糊塗の「ニミッツ攻撃」。 ニューギニア戦局、軍力にも憐むべき敵の錯覚。 大東亜相、名古屋で激励放送。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2284	D 32	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	23	朝日新聞社	新聞	中部太平洋にも決戦 皇太子殿下 学習院壮行会御参列 米穀対日供出確保	ソロモン戦局、マキン・タラワ両島に敵上陸、我々線中断を企画、ソロモンの側面牽制を狙う。 御見送り遊ばされる皇太子殿下、写真あり。 満州国の開発を援助、閣議決定。
2285	D 33	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	11	24	朝日新聞社	新聞	印度飢饉重大化 国際的地位確立す 比島の繁栄を確信	英、老獺の責任転嫁、インフレ増大と全くの無策。 自由印度仮政府の地歩。 自由印度仮政府首班のボース氏、マニラで演説。
2286	D 34	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	24	朝日新聞社	新聞	ギルバート諸島・赫々の戦果、海鷲・地上部隊の壮絶極まる激激戦 本格的艦隊決戦示唆	空母四、戦艦など三轟沈破、敵機百廿五、両軍なほ激闘中。 マーシャル群島に虜接、戦略的の意義重大。
2287	D 35	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	25	朝日新聞社	新聞	日独文化協定締結五周年 皇軍桃源を占領 疎開急速実施へ	医事分野の協力強化、両国間の意見一致す、研究援助相互通報。 中国湖南省常德城外で手榴弾戦。 東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡六都府県に専門委員会着手。
2288	D 36	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	26	朝日新聞社	新聞	米「挑戦通告」痛憤の回想、来栖大使真相を語る 学術研究会議を改組 戦艦以下廿八撃沈破	誤る米の戦争指導部、開戦は一部の強硬意見。 科学動員の参謀本部化。 ガダルカナル島周辺の海戦にて海軍両感状部隊の偉勲。
2289	D 37	朝日新聞	1943	昭和十八年	11	30	朝日新聞社	新聞	大元帥陛下 陸大卒業式に臨御 出撃の敵機動部隊を連続撃滅 空母群に大鉄槌	大本営陸軍部にも行幸。 海鷲・潜艦ギルバート西方に大戦果、空母四轟撃沈、一大破。 ソロモン戦局で我軍奮闘、思い知れ、ニミツ攻勢。
2290	D 38	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	1	朝日新聞社	新聞	巡艦二轟沈破 輸送船一撃破 要衝・常德を奪取 増税等廿七法案	ギルバート島沖航空戦でマキン島在泊敵船団猛爆。 重慶軍十萬を破摧、肉弾で城壁突破、東北西三門から殺到。 議会提出件名決る。
2291	D 39	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	2	朝日新聞社	新聞	執拗に出撃の敵機動部隊撃砕 三笠宮妃殿下 御吉兆を拝す 敵さらに出撃せん	空母等四轟撃沈破、ギルバート諸島 海鷲輝く連続戦果。 昭和十六年十月の御成婚なる妃殿下 御五ヶ月のおめでた。 ギルバート諸島に基地推進の意図熾烈。
2292	D 40	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	3	朝日新聞社	新聞	戦争挑発者は誰か、欺瞞と歪曲に満つ米公文書 反攻二年・焦る敵陣営、	翼賛会地方支部長会議にて来栖特派大使講演、要旨あり。 勝敗を決する海空軍、重慶軍頼むに足らずと暴露。
2293	D 41	朝日新聞	1943	昭和十八年			朝日新聞社	新聞	大本営陸海軍報道部課長対談① 半狂乱の抵抗 米、空母喪失を発表	今後は自衛の戦、我資源確保に敵は焦る、元戦局は筋書き通り。 中国円線常德攻撃、断末魔の城徳入城第一報、写真あり。 米海軍省ギルバート諸島における損害を小出し報

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2294	D 42	朝日新聞	1943	昭和十八年			朝日新聞社	新聞	常德、凄絶な白兵戦 舟艇に十字砲火 “週間の動き”	猛炎、肉弾の大突撃、総攻撃開始以来七日間。 “日本軍、怒りをこめ猛攻”タラワ激戦を米記者報道。 米英軍のベルリン盲爆に独の戦意高まる。
2295	D 43	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	5	朝日新聞社	新聞	歴戦・海鷲の至宝に輝く 恩命 我軍、常德を完全占領、 感激の入城 友永中佐ら特旨叙賜	大東亜戦第廿一回死没者論功行賞、廿五勇士・二階級特進。 作戦開始以来の一ヶ月総合戦果、敵損二万一千余。 優賞四十七勇士 特殊海員に金鶏の誉。
2296	D 44	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	6	朝日新聞社	新聞	敵機動部隊をブ島南方 に激撃 大本営陸海軍報道部課 長対談③ 大東亜戦海軍作戦記録 画	空母三、戦艦一轟撃沈等 ブーゲンビル島南方海面で戦果。 撃て砕け生産の隘路、努力こそ勝利、銘記せよ「一億戦闘員」。 畏くも天覧・台覧の栄え、将兵の奮戦を偲ばせ給ふ、画の写真あり。
2297	D 45	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	6	朝日新聞社	新聞	天皇陛下 伊勢の神宮に 御参拝、藤田嗣治画伯 謹作 わが猛威“百撃百墜” 英は印度防衛に必死	天皇、皇后両陛下の鴻思の有難さを画布におさめ国民に伝える。写真あり。 ビルマに空の決戦迫る。 欧州戦線で多難な英軍、印度戦線にも腐心。
2298	D 46	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	7	朝日新聞社	新聞	空母二、巡艦二を轟沈破 大本営陸海軍報道部 課長対談④ 敵屍二万五千俘虜一万	マーシャル諸島来襲の敵壊滅、内南洋に迫る、戦局深刻。 撃て砕け敵の謀略、空宣伝を一蹴、一億家族団結で行け。 北支軍九月中旬来の戦果、華北建設に重大意義。
2299	D 47	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	7	朝日新聞社	新聞	大本営親臨の大元帥陛下 宮本三郎画伯謹作 開戦二周年、大戦果に酔 ふな 皇軍敵機、地形に挑戦	御前会議の模様、写真あり。 実行第一に透徹せよ、後宮中軍司令官蹶起(決起)を要望。 力強しビルマ国防軍志願殺到。
2300	D 48	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	8	朝日新聞社	新聞	大元帥陛下 畏き御精励 ギルバート方面海域 海 鷲の勇戦御嘉尚 敵の損害六十万七千、 飛行機三千、艦船二七 三を屠る	民一億米英撃滅に邁進せん。 連合艦隊司令長官に勅語。 過去一年間に収めた帝国陸軍の総合戦果の主要なもの発表。
2301	D 49	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	10	朝日新聞社	新聞	鳳雛の練武に御満悦 ブチドンで一干潰乱 敵損害千四百	陸軍予科士官学校に臨御、大元帥陛下御閲兵、写真あり。 ビルマ戦線アンダマン列島 来襲敵機撃退、英軍との戦闘続く。 ニューギニア戦線のマダン南方で我が軍の戦果。
2302	D 50	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	10	朝日新聞社	新聞	珊瑚海海戦、中村研一 画伯筆 大東亜西正面第一線で 致命的消耗、撃墜六百 完勝へ“頑張り”戦術	天覧に輝く決戦画①、写真あり。 ビルマの陸鷲一ヶ年の戦果。 独、敵の大攻勢に鉄壁の布陣。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2303	D 51	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	11	朝日新聞社	新聞	敵焦慮の反攻を撃砕 必勝・明年度一般会計予算案決る 抹殺せよ、残虐の米英	日独鉄血の誓揺がず、三国軍事協定締結満二年。 百五十二億四千万円、生産拡充の急需に重点。 松村陸軍報道部長 烈々、郷軍に訴ふ。
2304	D 52	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	11	朝日新聞社	新聞	敵損害二万二千、遺棄屍師長六名以下一万一千 “週間の動き”トルコ、ソ連の態度に頭痛 米焦慮の太平洋戦略論	常徳攻略戦大戦果。 テヘラン会談後、米英首脳カイロに立寄り トルコ大統領と会談。 空母大集団で本土へ、島越え戦法で比島を漸進。
2305	D 53	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	12	朝日新聞社	新聞	神宮御親拝けふ一周年 ソロモン、ニューギニア依然激戦、ビルマ・インド国境の敵準備未し 西南各基地を猛爆	敵米英覆滅・一億総神拝、写真あり。 週間戦況、全戦線にわたり顕著な戦果。 中国戦線、衡陽・零陵をも強襲、卅機を撃墜破。
2306	D 54	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	13	朝日新聞社	新聞	肅然たる勝利の祈念 重慶包囲鉄環確立す 開戦以来十三万	一億総神拝、蒼生の誓ひ愈々固し、神宮に感激の一瞬。 大陸の日米決戦本格化。 米、人的損害小出し発表。
2307	D 55	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	13	朝日新聞社	新聞	一億、攻勢へ蹶起せよ 駆潜艇の活躍、藤本東一画伯筆 米英同時攻勢を夢む	敵の消耗戦企図を粉碎。 天覧に輝く決戦画③、写真あり。 警戒せよ、日独離間の謀略。
2308	D 56	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	14	朝日新聞社	新聞	吉田前支那方面艦隊司令長官と御嘉尚の勅語 衡陽等重要基地を陸鷲、連日猛爆撃 明年戦局さらに熾烈化、全産業人よ奮起せよ。	帰還の桑原中將らも拝謁の栄。 九日間に八十四機撃墜破炎上、赫々たり この戦果。 大本営陸軍報道部長松村大佐、住金で講演。
2309	D 57	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	14	朝日新聞社	新聞	米空軍の掩護化にも重慶軍の完敗を実証 十二月八日の黄浦江上(三部作)、橋本関雪画伯筆 大陸航空戦も熾烈化	中支冬季進攻作戦の意義。 天覧に輝く決戦画④、写真あり。 衡陽急襲隼部隊長「血闘」を語る。
2310	D 58	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	15	朝日新聞社	新聞	中等三年生程度に陸軍特別幹候生制 議会提出法律案要綱七件閣議決定 事務簡素化本極り、千九百卅八件急速実施	飛行兵、船舶兵まづ採用。 郵便料金大幅引上げ、簡易保険限度二千元へ。 行政事務の整理簡素化、中央官庁権限の地方委譲の具体化。
2311	D 59	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	16	朝日新聞社	新聞	潜水艦の出撃、茨木杉風画伯筆 レニングラード砲撃に廃墟 米軍将校が指揮	天覧に輝く決戦画⑥、写真あり。 独軍連日の巨弾にソ連国民の死傷続出。 ビルマ・インド国境戦線で酷使に喘ぐ在インド重慶

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2312	D 60	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	17	朝日新聞社	新聞	敵空輸機を猛襲撃、印支空路に痛打 ソ連バルカンで譲歩、西欧攻勢を強要 軍需会社徴用規制 けふ実施	十月中旬以降、ビルマ方面帝国陸軍航空部隊戦果上る。 不明朗な米英ソ会談始末。 期限は二年と指定せず。
2313	D 61	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	18	朝日新聞社	新聞	議会提出八法案要綱発表、増税法案は廿一日決定 当分競馬停止	統制団体役員等の洗職、秘密漏洩に罰則、経済統制、運営完璧化、日炭一手買取販売会社へ、軽金属増産等に資す、鉄道を緊急建設。 東京、京都一部施設で種馬確保。
2314	D 62	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	18	朝日新聞社	新聞	神宮に御成婚御報告 ツラギ夜襲戦、三輪梟勢画伯筆 第六戦区潰滅へ	東久邇若宮、同妃両殿下、写真あり。 天覧に輝く決戦画⑧、写真あり。 陸鷲、敵飛行場を連爆。
2315	D 63	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	19	朝日新聞社	新聞	敵ニューブリテン島に上陸 マーシャルに又敵機	兵員満載の舟艇多数爆砕、巡艦一輸送船十撃沈破。 十二台撃墜破、バラレ(ブーゲンビル島)で十七機撃墜。
2316	D 64	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	20	朝日新聞社	新聞	第八十四議会廿四日召集 敵マーカス岬から陸上進撃至難 印度洋へ艦隊増強	決戦増税法案が中心、審議の重点 予算総会へ。 行く手は密林と断崖、一部で上陸失敗。 敵対日正面攻撃に焦慮。
2317	D 65	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	21	朝日新聞社	新聞	あゝタラワ・マキン両島守備隊 ギルバート作戦に大貢献 七生報国を實踐	五万余の敵を撃破、四千五百勇士玉砕す、見よ輝く陸戦隊魂。 我ら一億、敵必滅へ報復せん。 柴崎少尉を偲ぶ、同期生矢野少将談。
2318	D 66	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	25	朝日新聞社	新聞	マーカス岬アラウエ島敵陣に巨弾 シャン連合州軍政廃止、ビルマ領への併合成る 第八十四議会成立す	海鷲、ラバウルで廿四機撃墜、空中戦激化の一途。 ビルマ戦線で行政委讓式。 戦意昂揚の使命へ発足。
2319	D 67	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	26	朝日新聞社	新聞	ラバウルに敵機百廿五 敵機、北千島を窺う ラコナ(フィンシハーヘン北方)に敵上陸、週間戦況	五十八機を撃墜、海鷲マーカス岬ピレロ島拠点も猛爆。 クルック島以西を強化、明春反攻を期し補給活発。 連日の豪雨中に激戦展開、ニューギニア戦線一段と深刻化。
2320	D 68	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	27	朝日新聞社	新聞	第八十四議会開院式 煙草大巾値上げ	前線将兵の勇戦奮闘と銃後の奉公嘉せらる、優渥なる勅語に全員感泣、厳肅なるこの一瞬、議員のみならず国民へ賜った勅語、けふ両院で戦況報告。 「金鶏」廿三銭、「光」四十五戦、けふ実施。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2321	D 69	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	27	朝日新聞社	新聞	陸海両相戦況を説明、けふ本会議 海軍落下傘部隊のメナド奇襲、宮本三郎画伯筆煙草値上	両院皇軍に感謝決議、敵撃滅の決意を表明。 天覧に輝く決戦画⑩、写真あり。 増収五億二千八百万円、平均五割けふから実施。
2322	D 70	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	28	朝日新聞社	新聞	随所に敵反撃砕、陸相戦況報告 屠る艦船百六十、撃墜九百四十、海相戦況報告 江南殲滅作戦に感状	敵たり我戦略体制、西南太平洋激戦継続、ニューギニア補給戦。 米兵の戦死十七万、南太平洋に大戦果、壮烈我陸戦隊玉砕。 輝く築瀬部隊などに栄。
2323	D 71	朝日新聞 夕刊	1943	昭和十八年	12	28	朝日新聞社	新聞	運命の戦線、東部戦線 ベンガル湾頭波高し 木造船建造本部設置	独軍の責や重大、凍結季到来し赤軍攻勢を再開。 ビルマ戦線に米・英・重慶の攻撃継続。 運輸通信省は官民合同の実務機関として設置決定。
2324	D 72	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	29	朝日新聞社	新聞	敵またもニューブリテン島西北端に揚陸 農業労力を確保、食糧自給態勢強化対策要綱 内地人口調査、明年二月廿二日午前零時現在	巡洋艦二、船艇七を屠る、戦局更に重大、敵の基地推進企画執拗。 自作農創設計画も促進、戦時農業要員は徴用から除外する。 “敵前調査”(戦力の増強を意図)へ全国民の協力を要望。
2325	D 73	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	30	朝日新聞社	新聞	敵の損害四万七千、洞庭湖西方総合戦果 五十機中卅一撃墜、海鷲ラバウルの激撃戦果 新年の我が任務は政戦	わが軍原態勢に復帰、重慶抗戦中の敵主力を撃滅。 ラバウル周辺戦線で戦闘機隊同士の戦闘激化。 井上情報局第三部長「戦時外交一年の回顧と展望」と題して放送。
2326	D 74	朝日新聞	1943	昭和十八年	12	31	朝日新聞社	新聞	一進一退は兵家の常 “必勝”の前線勇士悠揚 独ソ、三大要点で激闘 独軍ヴィ市北西の多数陣地奪回 囑託以下百四十八氏の栄	南太平洋戦線でわが軍奮闘、銃後も労苦一体、敢闘せよ。 ソ連軍の冬季攻勢はキエフ、ジトミール、ヴィテブスクに膨大な兵力で続行。 支那事変海軍論功行賞、海軍省公表。
2327	E 1	中部日本新聞	1945	昭和20年	6	6	中部日本新聞社	新聞	敵国場川を渡河首里南方四キロに迫る 阪神へB29 350 撃墜五十六機撃破百四十四	沖縄本島中央戦線の困難加重。 芦屋、御影を焼夷爆撃。 陸海制空部隊の6月5日迄の戦果。
2328	E 2	中部日本新聞	1945	昭和21年	6	8	中部日本新聞社	新聞	那覇西南に新上陸。 けふ大詔奉載日 悪天衝いて出撃 国民義勇隊の本義	小祿(おろく)飛行場を狙う。 開戦の詔書(昭和16年12月8日)全文掲載。 特攻隊、敵艦船群を猛攻。 増産、敵来らば戦闘。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2329	E 3	中部日本新聞	1945	昭和22年	6	9	中部日本新聞社	新聞	臨時議会召集 首相けふ 施政演説。 決戦生産体制を確立 艦船群に殺到	戦時緊急法案、義勇兵役等六法案提出。 全国産業を再配置。 我航空部隊敵艦二隻を撃沈。琉球列島に敵機活 澆、空戦展開。
2330	E 4	中部日本新聞	1945	昭和23年	6	11	中部日本新聞社	新聞	本土決戦に備ふ地方総 監府 B29、P51三百七十機 敵機暴爆の1ヵ月半	生活と防衛一体化。 主力は関東へ、広範囲に散発的来襲。 焼失四十余万戸。
2331	E 5	中部日本新聞	1945	昭和24年	6	20	中部日本新聞社	新聞	初の地方総監会議開く。 七月から配給が変る。	鈴木首相訓示。軍と密接に連繫、国民戦争の本質 に徹せよ。 味噌180匁(据え置き)醤油2合7勺(1合減)
2332	E 6	中部日本新聞	1945	昭和25年	6	24	中部日本新聞社	新聞	義勇兵役法御制定に優 渥なる上諭賜ふ 三地区で血闘展開 我作 戦環境困難加ふ 国民義勇隊の歌制定	一億の挺身を御嘉賞。服役期間は1年。 沖縄本島島尻地区。巡洋艦等6隻撃沈破。 断乎と守る父祖の土地。(楽譜つき)
2333	E 7	中部日本新聞	1945	昭和26年	6	25	中部日本新聞社	新聞	国民義勇戦闘隊教令 沖縄救う血と翼 知っておきたい戦災医学	17条 生きて虜囚の辱めを受けず死して罪科の汚名 を遺すことなし。18条 縦ひ(たとい)その身重傷を 蒙るとも、之が為戦意を沮喪することなきを要 す。 学徒今や廿四(24)時間特攻。 外科の立場・内科の立場。
2334	E 8	中部日本新聞	1945	昭和27年	6	26	中部日本新聞社	新聞	壮烈・沖縄の軍官民 牛島中将訣別の辞 本土決戦と米国の非望	6月20日最後の攻勢最高指揮官牛島中将。 阿修羅となり敵撃滅長恨千歳に尽くるなし。 本土作戦我思う壺。
2335	E 9	中部日本新聞	1945	昭和28年	6	28	中部日本新聞社	新聞	久米島に敵新上陸 中都市爆撃益々熾烈化 雨と泥のビルマ戦線	沖縄本島西方90キロ。 6月15日大阪空襲から26日の名古屋・各務原の爆 撃までの12日間。来襲回数83回、機数は約1600 機。 我勇士日夜奇襲斬込み。
2336	E 10	中部日本新聞	1945	昭和29年	6	29	中部日本新聞社	新聞	駆艦1隻を撃沈 敵掃海 艇二隻爆沈 三頭会談を衝く	ボルネオ島バリツクパパン方面。 対日戦終了まで三国の破局防止策。英米、ソ連引 込に苦慮。
2337	E 11	中部日本新聞	1945	昭和30年	6	30	中部日本新聞社	新聞	牛島沖縄最高指揮官長 参謀長と割腹自決 ソ連外交の勝利 神鷲に捧ぐ甘藷大增産	ポーランド統合政府成立。 全農家の奮起あらば直ちに翼の大攻勢。諸(いも) こそ航空燃料の母。
2338	E 12	中部日本新聞	1945	昭和31年	7	10	中部日本新聞社	新聞	沖縄県民の陣頭に起ち 戦時行政官の本分發揮 生活の再編成 P51四十機来襲	島田知事に初の賞詞。 心理学の立場から。主食の減配と戦闘的勤労。 浜松、豊橋付近を機銃攻撃。近畿にも50機。
2339	E 13	中部日本新聞	1945	昭和32年	7	11	中部日本新聞社	新聞	敵機動部隊近接 B29三軍管区へ四百六 十機	艦上機800関東各地に来襲。 岐阜、四日市へ110。富山湾へ機雷。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2340	E 14	中部日本新聞	1945	昭和33年	7	12	中部日本新聞社	新聞	本土血戦への幕開く 本土戦場化に備ふ食糧 対策	2000機爆撃実現。耐え抜いてこそ勝機あり。 全面的に切り替え断行。地域自立性確立。
2341	E 15	中部日本新聞	1945	昭和34年	7	13	中部日本新聞社	新聞	殺傷一千五百艦艇十七 撃沈破 闘魂こそ驕米撃摧 二合一勺と決戦食事訓	ボルネオ島バリツクに新攻勢撃退。 敵の爆撃強化に耐え抜け。 主食は二合三勺から二合一勺へ。野草も立派な食糧。 “二食主義”に馴れよう。
2342	E 16	中部日本新聞	1945	昭和35年	7	14	中部日本新聞社	新聞	上陸軍せん滅の条件揃 ひこれで尚(なお)必勝を 疑ふか B29三百機侵入。 ソ連大陸へ重壓(圧)	大垣・一宮・各務原付近、宇都宮・京浜地区を焼 爆。 世界外交の焦点東亜へ。
2343	E 17	中部日本新聞	1945	昭和36年	7	15	中部日本新聞社	新聞	艦上機数次に亘り、東 北、北海道来襲 敵の補給力、想像以上 ああ紅顔の学徒警乗隊 外食券愈々(いよいよ) 実施	主力数百機、陸奥湾へ。艦上300B29 20機函館、室 蘭、帯広等を攻撃。 次期作戦早期実現か。 列車を狙う敵機必墜。
2344	E 18	中部日本新聞	1945	昭和37年	7	16	中部日本新聞社	新聞	敵機動部隊東北、北海 道連襲 P51百機東海侵入 上諭に拝す学徒動員	室蘭付近を艦砲撃。 超低空で無差別爆撃。 双肩に皇国の急断乎闘い抜かん。
2345	E 19	中部日本新聞	1945	昭和38年	7	17	中部日本新聞社	新聞	機動部隊執拗に東北攻 撃 P51東海を再襲 外食制度・二十一日から	年齢別に基準。
2346	E 20	中部日本新聞	1945	昭和39年	7	18	中部日本新聞社	新聞	中小都市を欺騙攻撃 九州へ戦爆二百三十機 米の対独教育政策	B29 300余機・桑名、沼津、平塚、大分を焼爆。 民族意識を去勢。早くも教科書を準備。
2347	E 21	中部日本新聞	1945	昭和40年	7	20	中部日本新聞社	新聞	機動部隊なお近海遊弋 (よく) 東海地区へP51六十機 三頭会談と米の腹案	撃墜破135機激撃戦果。 愛知、岐阜、静岡の飛行場攻撃。 米はドイツ共同占領制確立の腹案。
2348	E 22	中部日本新聞	1945	昭和41年	7	21	中部日本新聞社	新聞	B29四百機分散侵入 P51百機東海へ来襲 敵の物量恐るるに足らず	岡崎、福井、尼崎、銚子を焼爆。 豊橋、岡崎、安城を銃撃。 物の過信こそ弱点 頑張ればやがて敵に破綻。
2349	E 23	中部日本新聞	1945	昭和42年	7	22	中部日本新聞社	新聞	古強者を第一線に本土 殺到の気構え 艦上機来襲延(のべ)四 千八百 戦略爆撃を倍加	攻撃目標、陸上交通へも。 日本の潜在力なお強大 敵側の放送。
2350	E 24	中部日本新聞	1945	昭和43年	7	23	中部日本新聞社	新聞	鉄道義勇戦闘隊けふ編 成を下令 P51二百機侵入 木製機を急速増産	全陸運の最後態勢なる。 近畿・中国。 軍需省に促進部設置。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2351	E 25	中部日本新聞	1945	昭和44年	7	24	中部日本新聞社	新聞	房総南端(五十キロ)沖で駆艦八隻と交戦 三頭会談 重ねて中小都市の防空戦訓	攻撃20分の後撃退。 東亜問題日程へ。 老幼妊婦に多い死傷。
2352	E 26	中部日本新聞	1945	昭和45年	7	25	中部日本新聞社	新聞	艦載三百・B29三百機来襲。 安部内相、県官吏に訓示 米の政治攻勢激化	四梯団10時間に亘り東海地区を攻撃 来襲機総数約2000。近畿地区へ550。 素裸になって闘え。 対日戦急速終結を焦る。
2353	E 27	中部日本新聞	1945	昭和46年	7	26	中部日本新聞社	新聞	不逞敵艦隊又も近接 中小都を爆弾攻撃 職場死守大空襲に耐へん	潮岬を艦砲射撃。艦載機六百数十機来襲東海中部軍管区を攻撃。 交通破壊戦を開始。 敵機頭上以外は電車も決死運転。
2354	E 28	中部日本新聞	1945	昭和47年	7	27	中部日本新聞社	新聞	宮殿炎上にも拘わらず天機愈々麗し ブケット島を艦砲撃 本土の地形こそ戦車戦術発揮の秋 延安と妥協策す 対日共同申入れか三頭会談	畏し御多端の御日常。 上陸企図の敵を撃退。 必勝の抱負語る部隊長。 重慶、米ソの要望に屈服。
2355	E 29	中部日本新聞	1945	昭和48年	7	28	中部日本新聞社	新聞	機動部隊、海上で補給依然、本州南方に行動今後長期間の出没の算大 英の労働党遂に勝つ チャーチル辞職 アトリー後継内閣組織	去る24・25の両日、基地航空隊と呼応し艦載機で東海地区以西を攻撃した敵機動部隊はその後も海上補給をなし本州南方洋上にわたり出沒、航空基地や交通機関に攻撃を反復し、わが戦力の低下をはかり、ことに次期作戦に協力することも予想され、その動向は嚴重警戒を要する。 英総選挙の結果26日判明。労働党が下院の過半数を制したのは史上最初である。
2356	E 30	中部日本新聞	1945	昭和49年	7	29	中部日本新聞社	新聞	敵小型機・全土に来襲 東海・近畿・中国・四国へ 敵艦上機六百数十 関東へP51二百四十侵入 空襲下も断じて輸送	南方基地のP51 240は28日少数のB29に誘導され分散。本土に侵入し飛行場を爆撃。これと協力する機動部隊より発進した艦上機が本土に侵入し、東部・中部・東海の三軍管区及び四国方面等本土各地に亘(わた)り行動した。 24・25日の連続し空襲で感じたことは「足」の問題。28日の艦載機来襲でも私鉄は走らない、市電は止まったままだ。交通機関の停止でこの日の生産が阻まれたことは否めない。鉄道総局では24時間連襲の敵機の下でいかに国鉄を動かす大綱を決めているようだ。私鉄や市電に対しても東海北陸軍需管理局が「敵機頭上になき限り運転すべし」の要請あり。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2357	E 31	中部日本新聞	1945	昭和20年	7	30	中部日本新聞社	新聞	<p>首相、戦争完遂の決意 闡明(せんめい:明らかにすること) 米英重慶宣言を黙殺 力強い作戦部の自信 地下工場軌道に乗る 中小都の暴爆愈々激化、B29 360機侵入 B32登場、対日戦に参加 米陸軍省発表 B32登場、対日戦に参加 米陸軍省発表 亜炭、石炭・木炭に代る特攻兵器の燃料</p> <p>ニューヨークの摩天楼炎</p>	<p>内閣記者団 28日に鈴木首相と会見 現段階に於ける戦局観・三国共同宣言・食糧問題・政治力強化の 方途・国民道義の確立・航空機生産の現況の6項目を質した。</p> <p>三軍管区、大垣・一宮・津・焼津・宇治山田・海南・青森等焼夷攻撃。伊勢の神宮は御安泰。 B32は 火力の強化と爆弾搭載量の増大を主眼とし特に太平洋戦争のために設計。</p> <p>亜炭は水分と灰分が多く、カロリーも4,000カロリーだが亜炭コークスとするとカロリーが上がり原料炭・特殊ボイラーを除けば他は賄うことができる。 木炭不足の折、家庭燃料としても利用できる。 ニューヨーク来電、28日午前10時B25が エンパイアステートビルの86階に衝突、ビルは火を発生し90階まで燃え上がり300フィートの火焰を噴きあげた。11時過ぎに鎮火、死者9名。</p>
2358	E 32	中部日本新聞	1945	昭和20年	7	31	中部日本新聞社	新聞	<p>機動部隊、空海から来襲 浜松、潮岬を艦砲撃、千百機で終日空襲 夏の野草を食べよう、調理次第で美味しく栄養満点</p>	<p>東海へ600機侵入、関東・甲駿に延べ700機。</p> <p>近畿に350機、P51約250。 食べる野草 アカザ・アラビユ・イヌビユ・クコ・クサギ・スベリヒユ・ノビル。</p>
2359	E 33	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	1	中部日本新聞社	新聞	<p>敵艦艇、清水湊を砲撃、空母十数隻を基幹、機動部隊関東南方を遊弋</p> <p>独軍損害400万</p> <p>口に平和をを唱えて邪剣を磨く米英重慶、今日仏教会で発表—三国宣言を撃摧—</p>	<p>30日早朝より終日関東・東海・阪神を波状攻撃。機動部隊艦上機並びに硫黄島からのP51、沖縄からのP31など侵入小型機は延べ2,000機内外に達した。同日夜間も敵艦上機は単機または少数機で関東地区海岸線及び浜松・豊橋付近海岸線を行動。また、小艦艇は同夜零時過ぎ清水市に約90発の砲弾を打ち込む。</p> <p>連合軍当局1939. 9. 1~1944. 11. 30のドイツ軍の損害総数4,074千名、戦死者1,911千名、行方不明1,436千名、捕虜288千名、兵役免除439千名。</p> <p>米・英・重慶三国は日本降伏の最後の条件である三国共同宣言を放送。これに対して鈴木首相は「三国共同宣言は何ら重大な価値は無い。ただ黙殺し断固戦争完遂にまい進するのみ」と所信を披歴した。これに呼応して大日本戦時宗教報告会では真の平和を願う仏教徒の立場から三国共同宣言に反駁、これが徹底的撃際摧を期すため大東亜戦に関</p>
2360	E 34	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	2	中部日本新聞社	新聞	<p>陸海の戦争備着々強化 大本営発表・千余機を撃墜破(7月)、艦船26隻を撃沈破(6月25日来)</p>	

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2361	E 35	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	3	中部日本新聞社	新聞	関東へB29四百数十機 鶴見、川崎等六都市攻撃 独賠償額200億ドル	
2362	E 36	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	4	中部日本新聞社	新聞	戦、駆艦二隻近接 大鳥島を艦砲撃、艦上機 60機も来襲 P51百機関東来襲 軍事施設、市街地を攻撃 郷土の要塞化と家庭生活の野戦化 一億徹底抗戦の拠点化	硫黄島よりP51、60機はB29、2機に誘導され宇都宮・香取・百里原飛行場など攻撃。次に第二波P51、40機がB29、3機に誘導され大宮・前橋・高崎・小田原などの市街地を攻撃。
2363	E 37	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	5	中部日本新聞社	新聞	沖縄両指揮官に恩命 牛島中将、大将に進級 大田少将は中将に栄進 一ヶ月、延べ二万機来襲 週間戦況 我方決選兵力蓄積 食糧も地区自給、総合食 で勝ち抜かん	総合食糧計画、三食・副食の区別観念を排除、米麦、雑穀、水産物などと未利用食糧資源を総合して所要量を確保。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2364	E 38	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	6	中部日本新聞社	新聞	<p>沖縄三飛行場強襲 炎上十五ヶ所を確認</p> <p>P51約八十関東来襲</p> <p>九州へ百四十機</p> <p>太平洋と石油戦 距離と戦う米軍の消耗</p> <p>食糧難は世界的 飢餓状態の欧州 敵米も最低食生活へ</p> <p>素人に簡単にやれる そば栽培心得帳 菓草常備の道しるべ</p>	<p>新鋭陸軍爆撃隊は4日深更、沖縄本島北、中及び伊江島の三飛行場に強襲を敢行、炎上十五ヶ所を確認した。</p> <p>硫黄島を基地とするP51約78機は5日関東地区へ来襲。主として工場を狙ったが、一部は交通機関に重爆撃を加えた。</p> <p>5日午前～午後にかけて沖縄基地のP38八機又B24五十機B25など二十数機、小型約二十機、別にB24四機P38二機小型約四十機が南九州各地へ侵入。</p> <p>近代戦は燃料戦争、とくに今次大戦では石油戦としての性格が強い。現在加州諸港から太平洋戦線に送られる石油は月平均1400万バーレルと云われている。物量に物をいわせて強引な作戦を推進中の米軍の背後にも苦悩があり、燃料補給の一点についてみても明らかである。</p> <p>食糧難は一国一地域の問題ではない、アメリカでも同じ、ニューヨークタイムスは「肉の入手は益々困難であり卵や魚肉への転換が全国的風潮である、一週二日の肉なし日を設けている都市はざらにあるが、肉が食べられる日でも数量は限られている、アメリカ自身食糧不足に悩んでいる折、欧州に必要なものを全部送ることはできない、アメリカは太平洋戦争を戦うために膨大な需要を充足しなければならないとデトロイト・フリー・プレスは報じている。</p>
2365	E 39	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	7	中部日本新聞社	新聞	<p>伊藤司令長官を先頭 沖縄敵艦船に突入 全員悠久の大義に殉ず 指揮官伊藤中将、海軍大将に進級</p> <p>B29四百十五機 関東前橋・高崎、中部今治・宇部・西宮地方を攻撃 対日作戦区域を変更 南方は英濠軍が主体</p> <p>主食糧配給率 月に米は“八日分” 今月は甘藷を二日分</p>	<p>去る四月の敵米の沖縄上陸を掩護する敵艦隊に対し指揮官伊藤中将の坐乗艦を先頭に壮烈無比の敵中突入作戦を決行、貴重なる成果を収め自ら特攻隊の使命に徹し悠久の大義に殉じた。この殊勲に対してこれを全軍に布告した。</p> <p>マニラでマッカサー、マウントバッテン会談でマッカサー作戦区域(ボルネオ・セレベス・ジャワ)をマウントバッテンの作戦区域へ移したと思はれる。従って米軍の鋒先は直接日本本土に指向けられ、英濠軍を主体とする印支佛蘭阿土軍は南方の奪回作戦に当ると想像される。</p> <p>愛知8月分主要食糧総合配給率;米8日、精麦7日、小麦粉7日、馬鈴薯と甘藷粉1日半、甘藷2日、雑穀5日。</p>

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2366	E 40	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	8	中部日本新聞社	新聞	B29廣島攻撃に新型爆弾を使用 落下傘で投下、空中で破裂か 謀略の予告爆撃 防空戦闘に万全の準備 獅子舞部落の増産説 逞しき芸人の団結 共同作業もすらすらと	大本営発表(昭和20年8月7日15時30分) 1. 昨8月6日広島市は敵B29少数機の攻撃に依り相当数の被害生じたり 2. 敵は右攻撃に新型爆弾を使用せる如きも詳細目下調査中 堅牢な横穴壕を 少数機にも厳戒。 最近敵は中小都市爆撃と並行して攻撃目標を予告する謀略の手を用いている、「人を殺傷するのは本来ではないが、爆弾には目がないから…」と優声音で人道の仮面を装っているがこれこそ口に正義・人道を唱え、その行為たるや畜生にも劣るアメリカの常とう手段である。
2367	E 41	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	9	中部日本新聞社	新聞	新型爆弾の防禦対策 堅牢丸太掩蓋壕が有効 李?(金へんに禺)公殿下御戦死 空爆下・広島で作戦任務御遂行中 亜炭を掘って穴は壕に 新型爆弾何ぞ地下にもぐれ	現地から防空対策が教示された。この新型爆弾は地上400~500mで強力なる閃光を発して炸裂、同時に大爆音と大爆風、非常なる高熱を発する。この爆弾の被害を免れることは概ね可能とみられる。その対策は…。 陸軍省発表(8月6日)陸軍中佐李?公殿下は軍参謀として御勤務中のところ8月1日作戦任務御遂行中広島に於て空爆に依り御戦傷遊ばされ翌7日後戦死遊ばさる。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2368	E 42	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	10	中部日本新聞社	新聞	ソ聯突如・対日宣戦を布告 佐藤大使へ正式通告 九日戦争状態に入る 遂に米英蔣宣言に参加 満ソ国境東西からソ連軍攻撃を開始 少数機で要地を爆撃 帝国の誠意を無視 日満軍果敢に邀撃 機動部隊東北を攻撃 釜石を艦砲射撃 艦上機延千百機来襲 長崎に新型爆弾か	ソ聯外務人民委員モロトフは8日夜佐藤大使を招致、ソ聯は9日から日本と戦争状態に入る旨通知した。 [宣戦布告正文] 大本営発表(昭和20年8月9日17時) 1. 8月9日零時頃よりソ聯軍の一部は東部及西部満ソ国境を越え攻撃を開始、又航空部隊の各少数機は同時頃より北満及朝鮮北部の一部を分散来襲せり 2. 所在の日満両軍は自衛のため之を邀(むか)へ目下交戦中なり 西部軍管区司令部発表(昭和20年8月9日14時45分) 1. 8月9日11時頃敵大型二機は長崎市に侵入、新型爆弾らしきものを使用せり 2. 詳細は目下調査中なるも被害は極めて僅少なる見込
2369	E 43	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	11	中部日本新聞社	新聞	帝国今や最悪の事態に立つ 国体維持の為に一億万難に耐えよ 政府また最善を盡(つく)さん 残虐極む新型爆弾 国際法を蹂躪 帝国、米に嚴重抗議 敵機動部隊を痛撃 樺太でもソ軍攻撃開始	敵米英は最近戦史上やってない残虐無道の新型爆弾を使用するに至り、更にソ連は9日遂に参戦、対日宣戦を布告、今や皇国に未曾有の危機存亡の最悪事態に陥ったが下村情局総裁は10日総裁談を発表、政府はこの危機に直面して光輝ある国体を護持せんとする最後の一线を守るため善処しつつあるが、一億国民も亦この場に処しあらゆる困難を克服して以て国体護持の忠誠を徹せしめんことを要望した。 6日広島市に対して行われたB29による新型爆弾の攻撃に関し帝国政府は10日下記の如き抗議をスイス政府を通じて米国政府に提出すると共に同様の主旨を赤十字国際委員会にも説明するよう在スイス加藤公使に対して訓令を発した。 米機の新型爆弾による攻撃に対する抗議文。 大本営発表 1. 我航空部隊は9日宮城県東方洋上の敵機動部隊を攻撃 2. 東部及西部満ソ国境方面のソ軍はその後逐次兵力を増強 3. 北鮮東方海面を航行中の我船団部隊は9日ソ軍機約八十機と交戦 4. 樺太国境方面のソ軍の一部は9日攻撃を開始

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2370	E 44	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	12	中部日本新聞社	新聞	ソ軍満州里に侵入 雄基 附近(東部)で激戦中 < 週間戦況> 戦雲、満州 国周辺を覆う 関東州全域に戒厳令 新型爆弾で威嚇 敵機来 襲や、低調 火傷に有効な白下着 安 全度の高い鉄筋建築 どうなるか煙草と酒の配 給 煙草・三本は必ず確保 原料十分、分工場建設 酒・業務、家庭用は期待 できず	9日ソ連軍の一部は不法にも東部、西部のソ満国 境より越境、所在の我軍はこれを激撃、次いで黒河 北正面、索倫正面並に樺太国境方面のソ連軍も攻 撃を開始し戦雲は満州周辺を覆うに至った。
2371	E 45	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	13	中部日本新聞社	新聞	満鮮東西に進出のソ軍を 邀え激戦中 我潜艦沖縄 海面の輸船猛攻 中爆機生産を重視 ニューヨーク・ヘラルド・ト リビューン紙 米国航空 機の新動向 原子爆弾 発明者を死刑 にせよ 英紙読者非人道 武器を非難 農家の苦勞知れば何で 出来よう野荒し 食糧難 で素(みだ)すな道義 新型爆弾の対策 絶対に 壕内待避 一機にも油断 禁物 その後の東山動物園	対日作戦に焦点を向ける米航空機がB29に重点を 置くがこれを別にすれば生産傾向は漸次中型爆撃 機並に戦闘機に重点が進みつゝある。 野荒し 農作物を盗むこと、愛知県 検挙総数は相 当多数に上り、戦時道徳心が欠如し「自分さえよけ れば一」の利己主義者の多いことを物語る。
2372	E 46	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	14	中部日本新聞社	新聞	梨本宮殿下命旨を賜う 皇国真に危急の秋 全郷 軍、戦勝一途に傾倒 聖戦完遂に邁進 東海軍 艦区司令官岡田中将談 原子爆弾の正体を衝く 広島視察記 閃光、次に 轟然破壊 強烈な熱線放 射 対策は 完全壕と防 空服装 名駅、上前津から直通運 転 名市電、瀬戸線乗入 れ	命旨。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2373	E 47	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	15	中部日本新聞社	新聞	<p>聖断畏し・和平の大詔降る 民族の保全に御軫念 皇 国の再建を御垂示 赤子 の戦禍を憫(あわれ)ま せ賜う 承諾必謹大御心に帰一 必ず父祖の遺託に応え ん 国体変革の意思なし 内閣告諭</p> <p>預貯金の安全確保 モラ トリアム(支払制限)実施 せず 蔵相談 艱難万苦寄せるとも忠義 心に光求めて 安部内相 謹話 妄動こそ大事を招 来 宮城二重橋前に皇国護 持を祈る赤子の群 何かなし熱田の杜へ 鳴 呼いつか号泣 武神に祈 る皇国護持 人心の和</p>	<p>詔書 全文。</p> <p>帝国政府は10日4カ国に対しその和平提議に関する外交折衝で疑義となった点について申し入れていた。13日4カ国を代表して米国政府からの回答があり、国体(天皇制を残すかどうか)についての考え方の違いがあきらかとなった。帝国政府はこの回答を検討し、解釈の相違はあるが少なくとも積極的に国体変革意思なしと認めて戦争終結の結果を見るにいたった。</p> <p>預貯金の安全を確保しモラトリアムの如き措置は絶対にとらない旨確言。インフレ防止対策の強力な推進と具体的方策を明らかにした。</p> <p>写真。</p> <p>評論。</p>

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2374	E 48	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	16	中部日本新聞社	新聞	<p>朕は如何あろうとも 国民への大愛の聖断 畏しその日の御前会議</p> <p>鈴木内閣総辞職 構想新たに新事態に処す 阿南陸相自刃 遺書切切・神州不滅を確信 高性能の原子爆弾 一億の戦争努力を烏有。</p> <p>いかな苦難も血涙もて越えん 御慈悲溢るる玉音 御放送の一瞬 民一億の慟哭 ひれ伏して動かず 悔恨に血の叫び 宮城前に 続々集う民草 預金心配無用 一万田日銀名支店長 食糧配給不安なし 端境期乗切りも大丈夫 翮群で渦巻く海 今年こそは必ず配給</p>	<p>最善の方法を見出すべく政府・統帥(とうすい)府の連日連夜の努力が続けられ、14日には畏くも陛下自身の御発議に基く前例のない御前会議で聖断が下され一切の解決を与えられた。</p> <p>14日夜官邸にて自刃。「大君の深き恵にあみし身は言ひ遺すべき片言もなし」 陛下に原子爆弾の惨害が民草に加重されることを懸念され政府をして戦争終結へ講ぜしめ給うた。9日以来最高戦争指導会議及び臨時閣議が続開され国体護持と民族の名誉保全を最後の一線に努力が傾注されたが14日午前11時宮中で天皇親臨の下全閣僚大本営両幕僚長、枢密院議長及び侍従武官長出席、重大会議が開かれ聖断を仰いで共同宣言受託の最高方針を決定した。</p>
2375	E 49	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	17	中部日本新聞社	新聞	<p>東久邇宮(ひがしくにのみや)殿下に大命降下 重臣に御下問なく 特に異例の御沙汰 今日親任式御挙行 米、作戦行動停止</p> <p>米経済再転換開始 職場移動の自由認む 失業者は出さず急速に軍需産業転換 工員よ工場へ帰れ 一時の失望に無為禁物</p>	<p>武装解除実施後陸海両省廃止か改組。情報局も廃止。復兵省を新設。新内閣の使命 民心を把握結集。国体護持の一線に帰一。</p> <p>連合軍最高司令官マツカサー15日言明。全戦線に亘り作戦行動停止された。ただし監察の目的のためある程度の空中巡察は継続の必要がある。</p>

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2376	E 50	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	18	中部日本新聞社	新聞	東久邇宮内閣成立 強力重厚の布陣 皇国再建へ邁進 大西中将自刃 後世に伝えん“この歴史” 文相管理下に国史編集院設置 量の増加に主力 今後の食糧は自給一本	内閣総理大臣兼陸軍大臣稔彦(ナルヒコ)王殿下 外務大臣兼大東亜大臣重光葵(マモル) … 海軍中將大西滝治郎 16日午前3時官邸にて自刃
2377	E 51	中部日本新聞	1945	昭和20年	8	19	中部日本新聞社	新聞	首相宮殿下 御決意を御報告 明治神宮、靖国神社に御参拝 占領地帯設定せず 最高司令官マツカーサー 米大統領、占領方式を言明	トルーマン大統領16日記者団と会見。連合軍の日本占領は日本人が具体的に平和愛好国民であることを示す迄続く。日本は欧州と事情が違うので連合各国軍による占領地帯の設定は認めない。日本占領は各国軍隊により組織され最高司令官はマツカーサーである。
2378	E 52	中部日本新聞	1945	昭和20年	12	22	中部日本新聞社	新聞	米の供出全く不振 政府専売を考慮 二合一勺維持にも赤信号 憲法改正既に御発議か 政府の態度政治問題化へ 天皇制改革の要 大公報社長米紙で論ず 改正選挙法の解説 青年層と婦人に期待 選挙権と被選挙権の拡張 生きている英霊の戸籍帰還後二ヶ月以内に届けければ復活 生鮮食料品 丸公撤廃一ヶ月後の報告 お魚は七倍に昂騰 品は出回っても手が出ず 戦災都市の復興ぶり 大半が自力建設 頼りにならぬ役人仕事	何れにしても今後多難なる食糧事情解決のため尋常な手段では供出の完遂はむつかしく何らかの処置を打たなければならなくなった。 憲法改正に関する勅命は政府に降されたが、政府はこのことに触れず憲法問題に関する公議の活発な展開を阻止しているが如き態度に出ており政治問題化している。 日本人の再教育に先づ第一に天皇を中心とする政治的・法制的組織を徹底的に破壊すべきで、制度としての天皇制は原則として廃止すべきである。日本人が天皇制保持を希望するなら天皇の権限を名目上のみに制限すべきである。 鰯の相場 11月上旬3円62銭／貫 11月中旬3円62銭／貫 丸公撤廃後 11月下旬25円30銭／貫 12月上旬25円80銭／貫

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2379	F	1 朝日新聞	1945	昭和20年	10	1	朝日新聞社	新聞	聖上 真の平和を希求 連合軍 新聞紙法等改廃 命令	外人記者に 国際的日本再建に言及。 日本政府による言論取締撤廃。
2380	F	2 朝日新聞	1945	昭和20年	10	2	朝日新聞社	新聞	外地関係銀行・会社21社 に閉鎖命令	連合軍司令部が接收 鮮・台銀行、満鉄、北支開発 も。
2381	F	3 朝日新聞	1945	昭和20年	10	4	朝日新聞社	新聞	天皇 マ元帥訪問 ロン ドンBBC報道 愛知県に米軍進駐第一	日本復興を協議。 公会堂、徴兵ビル、観光ホテル等。
2382	F	4 朝日新聞	1945	昭和20年	10	5	朝日新聞社	新聞	軍需産業民需転換 官 行政は側面援助 米・塩・石油輸入懇請 生糸・羽二重反対給付	整理補償援助 統制解除へ。 商工省 連合軍側と調整。
2383	F	5 朝日新聞	1945	昭和20年	10	6	朝日新聞社	新聞	東久邇宮内閣総辞職 終戦事務一段落 思想警察、治安維持法 撤廃	後継首班マ司令部の要望考慮。 連合軍最高司令部が要求。
2384	F	6 朝日新聞	1945	昭和20年	10	7	朝日新聞社	新聞	幣原組閣に 吉田外相留 任 政治犯34名釈放へ	天皇より大命を拝す。 新政治哲学実現を図るため。
2385	F	7 朝日新聞	1945	昭和20年	10	8	朝日新聞社	新聞	幣原内閣 組閣完了	
2386	F	8 朝日新聞	1945	昭和20年	10	10	朝日新聞社	新聞	幣原首相八大政綱を表明 開戦6か月で勝算あった 米ニミッツ元帥語る	民主政治、食糧、復興、失業、戦災者、引揚者、行 財政、産業、教育、思想を柱に基本的権利を尊重 する。 原爆投下、ソ連参戦なくとも本土侵攻前に降伏し た。
2387	F	9 朝日新聞	1945	昭和20年	10	13	朝日新聞社	新聞	米・塩・原棉を優先輸入 総司令部指示 進駐費30億円(2億ドル) 日銀よりマ司令部へ	配給機関創設指令。 日本占領費用に充当するため向う3か月分を用意 することに。
2388	F	10 朝日新聞	1945	昭和20年	10	14	朝日新聞社	新聞	天皇 憲法改正草案作 成を目指す 選挙法改正案閣議決定	ポツダム宣言に則って新憲法の制定に動く。 満20歳以上の男女に選挙権 有権者4200万人。
2389	F	11 朝日新聞	1945	昭和20年	10	15	朝日新聞社	新聞	政府 憲法改正に着手	改正の必要性・改正の要点を調査研究する。
2390	F	12 朝日新聞	1945	昭和20年	10	16	朝日新聞社	新聞	民主日本成否の課題は 憲法改正、国民生活の 安定	婦人参政権、労働組合法制定、学校教育の自由主 義化、経済機構の民主化をマ司令部が幣原首相に 提示。
2391	F	13 朝日新聞	1945	昭和20年	10	17	朝日新聞社	新聞	財閥解体 貿易は2か月 内に再開を 連合軍司令 部が表明	ポツダム宣言に則って三井、三菱、住友など戦時利 得の吐出と独占力の破壊を進める。
2392	F	14 朝日新聞	1945	昭和20年	10	18	朝日新聞社	新聞	天皇 恩赦の詔勅を発す 陸海軍省を第一第二復 員省に改組 官吏を5割縮減	9月2日以前の犯罪 100万人に及ぶ。 外地復員332万2千人を4年以内に。 幣原内閣 官吏制度の改革を指令。
2393	F	15 朝日新聞	1945	昭和20年	10	19	朝日新聞社	新聞	憲法改正起草 内閣へ 提案 近衛公私見として 財閥銀行刷新	内閣は議会の信認で、華族の特権廃止。 独占払拭、持株公開、三菱・安田・住友・帝国銀行。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2394	F 16	朝日新聞	1945	昭和20年	10	20	朝日新聞社	新聞	憲法改正と政府の立場 新日本自由党、日本社会党等新党結成準備進む	衆智を結集、結論は早く、飛躍は望ましくない。 旧日政系、旧民政系、旧政友中島系等分裂。
2395	F 17	朝日新聞	1945	昭和20年	10	21	朝日新聞社	新聞	行政整理協議会成案 越冬用衣料配給決る	官吏5割程度縮減。 農家に綿布2、3反 戦災者は一反以上特配。
2396	F 18	朝日新聞	1945	昭和20年	10	23	朝日新聞社	新聞	財閥は三重の利得 東条打倒に高松宮等も参画	解体偽装にも監視が必要。 元東方会会長中野正剛 自刃の真相。
2397	F 19	朝日新聞	1945	昭和20年	10	24	朝日新聞社	新聞	教授内容全面改訂をマ 司令部が指令	民主主義的に再教育。
2398	F 20	朝日新聞	1945	昭和20年	10	25	朝日新聞社	新聞	聯合軍返還物資の配給 方針決定 朝日新聞 戦争責任明確化	主食 缶詰 食塩等 戦災者遺族援護に重点。 民主主義体制を確立 社長・会長以下重役総辞職。
2399	F 21	朝日新聞	1945	昭和20年	10	26	朝日新聞社	新聞	四大財閥傘下企業に独 占的な富の集中 関西府県 数十年来の 凶作	三井、三菱、住友、安田、解体の方向に。 米の予想収穫高 水禍で早場米も不良。
2400	F 22	朝日新聞	1945	昭和20年	10	27	朝日新聞社	新聞	生活必需品の自由販売 11月5日頃までに制限撤 廃 憲法改正 調査会を設置	特定緊急品は統制。 基礎的研究から。
2401	F 23	朝日新聞	1945	昭和20年	10	28	朝日新聞社	新聞	知事公選法案 平価切り下げ否定	総選挙後に提案。 現在の経済状態の下では尚早と 蔵相言明。
2402	F 24	朝日新聞	1945	昭和20年	10	29	朝日新聞社	新聞	食糧435万トン 21年度 に輸入を要請	国民1人当り1日2160カロリー 蛋白質76グラム確保の 必用量として。
2403	F 25	朝日新聞	1945	昭和20年	10	30	朝日新聞社	新聞	四大財閥解体、現実に 米大統領12項目の外交 政策を表明	本社解散、持株処分、同族会社を含む役員更迭。 联合国で 平和保障機構の結成を提唱。
2404	F 26	朝日新聞	1945	昭和20年	10	31	朝日新聞社	新聞	内閣復興院設置	初代総裁小林一三氏
2405	F 27	朝日新聞	1945	昭和20年	11	1	朝日新聞社	新聞	なぜ敗戦したか 内閣に 調査機関を設置 米供出委員会結成 米 価据え置き	再建の出発点は今次戦争の敗因と実相の究明が 必要と。 麦・雑穀、豆類、甘藷、馬鈴薯、切乾甘藷等との換 算率決定。
2406	F 28	朝日新聞	1945	昭和20年	11	2	朝日新聞社	新聞	復員教育者復帰を一時 停止をマ司令部が指令	軍国主義者、国家主義者の追放を。
2407	F 29	朝日新聞	1945	昭和20年	11	3	朝日新聞社	新聞	主食の内容を充実	六大都市に数日分の芋類特配。
2408	F 30	朝日新聞	1945	昭和20年	11	4	朝日新聞社	新聞	15財閥に証券凍結命令	資本構成の変更防止の為と総司令部。
2409	F 31	朝日新聞	1945	昭和20年	11	5	朝日新聞社	新聞	天皇制存廃に世界の活 発な論議 食糧問題解決に一大国 民運動を期待	鍵は日本の意思。 農相 食糧危機克服に結束を目指して。
2410	F 32	朝日新聞	1945	昭和20年	11	6	朝日新聞社	新聞	恩給法抜本改正 中国内戦益々悪化	軍人は若年停止 官吏は満20年に。 両軍の衝突南方まで、満州へも戦火。
2411	F 33	朝日新聞	1945	昭和20年	11	7	朝日新聞社	新聞	民生安定に4施策	商相、石炭・電気・米・油脂 増産要望。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2412	F 34	朝日新聞	1945	昭和20年	11	8	朝日新聞社	新聞	36年ぶりの凶作	米の予想収穫高4660万石、絶対不足2000万石。
2413	F 35	朝日新聞	1945	昭和20年	11	9	朝日新聞社	新聞	米麦価引上げを発表 沖縄の生存者 30万	松村農相言明。 戦いの犠牲 10万人、軍隊は5万人生存。
2414	F 36	朝日新聞	1945	昭和20年	11	10	朝日新聞社	新聞	中国、天皇・東久邇宮 戦争犯罪人に指名 臨時議会12月1日召集、会期2週間の予定	公報、確認情報なし。 衆議院議員選挙法 改正を目指す。
2415	F 37	朝日新聞	1945	昭和20年	11	11	朝日新聞社	新聞	等価で新紙幣発行 期限付で交換 2000万石増産	通価を掌握、徴税の公正を期待。 155万町歩開拓法案を臨時議会に提出。
2416	F 38	朝日新聞	1945	昭和20年	11	12	朝日新聞社	新聞	東久邇宮、臣籍降下の決意表明 首相、英国流君主制が日本には好例	皇族は秩父宮、高松宮、三笠宮とし華族も辞すべきと。 マ元帥の意を支持し、AP記者に語る。
2417	F 39	朝日新聞	1945	昭和20年	11	13	朝日新聞社	新聞	天皇西下 伊勢神宮に終戦を報告 平和日本建設を祈願 全国80数か所にダム建設を意図	畝傍、桃山両山陵にも終戦を告ぐ。 電力開発と失業対策にと商工省が計画。
2418	F 40	朝日新聞	1945	昭和20年	11	14	朝日新聞社	新聞	大蔵省 健全財政5か年計画を策定 電話復興に3年計画 12月着工	歳出整理、財産税創設、その他租税政策、軍需補償対策。 逓信省 基本方針決定 65万(加入数の60%)を復旧。
2419	F 41	朝日新聞	1945	昭和20年	11	15	朝日新聞社	新聞	東條内閣にメス 金増産 買上げ価格2倍以上に引上げ	検察当局 真相解明にたつ。 対外決済手段に閣議附議。
2420	F 42	朝日新聞	1945	昭和20年	11	16	朝日新聞社	新聞	食糧輸入にバーター制 食いつなぎに 早刈早堀	見返り物資に金・銀・生糸等。 食糧危機突破懇談会開く。
2421	F 43	朝日新聞	1945	昭和20年	11	17	朝日新聞社	新聞	対日賠償政策大綱表明	联合国賠償委員会がマ司令部と打ち合わせ記者会見。 日本を非軍事化し、民主化を目的とする。
2422	F 44	朝日新聞	1945	昭和20年	11	18	朝日新聞社	新聞	土地強制買上げ案 閣議で検討 農林省 生鮮食料の統制改廃	マ司令部の要請で農地制度改革 自作農増設を。 生鮮食品の公定価格、配給制を見直し、出廻促進を。
2423	F 45	朝日新聞	1945	昭和20年	11	19	朝日新聞社	新聞	供出価格 各1石当り米150円小麦117円 臨時閣議で決定	昭和20年産米、21年産麦類に適用。
2424	F 46	朝日新聞	1945	昭和20年	11	20	朝日新聞社	新聞	中国側 在華權益一掃の方針 21年度赤字公債25億円と蔵相 関西財界との懇談で 聯合軍司令部 民間航空全面禁止命令	日本の経済的独占的支配機構を排除する 個人財産封鎖 会社資産は没収 邦人は指定地域に集中。 21年度予算は151億円程度と。 日本の空軍再建 侵略戦争の拳に出る可能性を阻止。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2425	F 47	朝日新聞	1945	昭和20年	11	21	朝日新聞社	新聞	農相談 米供出一本槍を 是正、培養農政への 転換 満州情勢更に陰悪	5年後 全面自作に。 國府 武力解決決意か。
2426	F 48	朝日新聞	1945	昭和20年	11	22	朝日新聞社	新聞	聯合軍司令 皇室の予 算を承認制 全資産の 凍結 総人口7199万人、19年2 月より 30万人減	15億円の皇室資産、各宮家の資産も凍結。 11月1日の人口調査結果、男より女が429万余多 い。
2427	F 49	朝日新聞	1945	昭和20年	11	23	朝日新聞社	新聞	11月1日人口調査で愛知 県285万で東京に次ぎ2 位	名古屋市59万人 19年2月比71万人減。
2428	F 50	朝日新聞	1945	昭和20年	11	24	朝日新聞社	新聞	衆議院選挙法改正案 農地制度改革案	議員総数468人 人口155千人当り1人の割合。 地主の大農場存続認め、自作収益価格を基準とす
2429	F 51	朝日新聞	1945	昭和20年	11	25	朝日新聞社	新聞	首相 施政方針演説	議会政治革新、農地改革、労働組合助長、新聞言 論自由化など。
2430	F 52	朝日新聞	1945	昭和20年	11	26	朝日新聞社	新聞	マ司令部 軍人恩給、軍 需会社補償の禁止を命 令 食糧等の輸入許可	政府財政改革を優先。 石炭、木材、かいこ、紙を中国、朝鮮に輸出。
2431	F 53	朝日新聞	1945	昭和20年	11	27	朝日新聞社	新聞	財政 全面的に聯合軍監 督下に	戦時利得没収 財産税7割。
2432	F 54	朝日新聞	1945	昭和20年	11	28	朝日新聞社	新聞	第89臨時議会 開院	蔵相 間接税中心に増税を表明。
2433	F 55	朝日新聞	1945	昭和20年	11	29	朝日新聞社	新聞	幣原首相演説	正義公平、民意反映、公民教育、食糧問題、住宅 対策を説く。
2434	F 56	朝日新聞	1945	昭和20年	11	30	朝日新聞社	新聞	衆院本会議で鳩山一郎 (自由)氏の質問	民主政治には 日本的限界が必要と。
2435	F 57	朝日新聞	1945	昭和20年	12	1	朝日新聞社	新聞	農地法改正	土地国有を避ける。
2436	F 58	朝日新聞	1945	昭和20年	12	2	朝日新聞社	新聞	選挙法改正案	衆院へ。
2437	F 59	朝日新聞	1945	昭和20年	12	3	朝日新聞社	新聞	農地・労務両法案	国政基本問題討議。
2438	F 60	朝日新聞	1945	昭和20年	12	4	朝日新聞社	新聞	軍、財閥、新聞人等 戦 犯59名に逮捕令	マ元帥 戦犯人追及の手。
2439	F 61	朝日新聞	1945	昭和20年	12	5	朝日新聞社	新聞	蔵相 衆院で言明 平価 切下げ無用	昭和15年基準で戦時利得税。
2440	F 62	朝日新聞	1945	昭和20年	12	6	朝日新聞社	新聞	購買力封鎖が目的の新 通貨発行 天皇に戦責なし 一切は 國務大臣に	蔵相が衆院で答弁。 首相言明。
2441	F 63	朝日新聞	1945	昭和20年	12	7	朝日新聞社	新聞	賠償、在外資産処理余 裕財源50億円を充当 23年度から黒字	骨格予算外収支。 財政5か年計画案で。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2442	F 64	朝日新聞	1945	昭和20年	12	8	朝日新聞社	新聞	真珠湾攻撃の3か月前に御前会議で決定 近衛、木戸ら9名に逮捕令 殺戮に処罰 聯合軍の見た太平洋戦史 奉天事件より降伏調印まで①	AP特派員ラッセル・ブラインズ氏の報道。 入京のキーナン検事談。 非道な隠蔽 満州事変は第二次世界大戦の序曲。
2443	F 65	朝日新聞	1945	昭和20年	12	9	朝日新聞社	新聞	現物賠償 当面の範囲 決る 聯合軍の見た太平洋戦史 奉天事件より降伏調印まで②	アルミ全生産力、製鋼設備250万トン以上 工作機40万、火力発電半減 苛性ソーダ20工場 航空機、硫酸関係全工場。 枕を並べた4空母、国民瞞した大本営発表。
2444	F 66	朝日新聞	1945	昭和20年	12	10	朝日新聞社	新聞	大企業は資本と経営の総合、中小企業は協同組合が適当 聯合軍の見た太平洋戦史 奉天事件より降伏調印まで③	蔵相が経済再建方式を強調。 飛石作戦の奏効 ラバウル孤立。
2445	F 67	朝日新聞	1945	昭和20年	12	11	朝日新聞社	新聞	マ司令部 土地制度改革命令 マ司令部捕虜虐待犯罪人57名に逮捕命令 聯合軍の見た太平洋戦史 奉天事件より降伏調印まで④	不在地主農地を安い年賦で農民に。 元首は侵略戦争の責任とれ。 潜水艦戦の猛威 サイパン降伏。
2446	F 68	朝日新聞	1945	昭和20年	12	12	朝日新聞社	新聞	憲法改正の構想	衆院予算総会で 社会党水谷氏論ず。
2447	F 69	朝日新聞	1945	昭和20年	12	13	朝日新聞社	新聞	336社の資産凍結	聯合軍総司令部が命令。
2448	F 70	朝日新聞	1945	昭和20年	12	14	朝日新聞社	新聞	農地 物納制の選択 学制改革 構想	衆院各派の修正案。 文部省 委員会設置。
2449	F 71	朝日新聞	1945	昭和20年	12	15	朝日新聞社	新聞	高校 中学 年限復活考慮、教員待遇改善	貴族院 予算総会で。
2450	F 72	朝日新聞	1945	昭和20年	12	16	朝日新聞社	新聞	食糧輸入促進 労働組合法案可決	貴族院 本会議で。 衆院 本会議で。
2451	F 73	朝日新聞	1945	昭和20年	12	17	朝日新聞社	新聞	超国家主義の抹殺を聯合軍司令部命令 近衛公自殺	神道の学校教育停止、官吏の公式参拝禁止。 戦争犯罪容疑で出頭前に服毒自殺。
2452	F 74	朝日新聞	1945	昭和20年	12	18	朝日新聞社	新聞	公共事業争議は改正調停法で解決	労働組合法成立。
2453	F 75	朝日新聞	1945	昭和20年	12	19	朝日新聞社	新聞	選挙関係の諸令施行 予算編成に総司令部の許可	選挙事務長廃止。 予算の実行、修正案にも。
2454	F 76	朝日新聞	1945	昭和20年	12	20	朝日新聞社	新聞	公正な新議会へ、干渉排除・民意反映	新人進出困難、婦選熱低調。
2455	F 77	朝日新聞	1945	昭和20年	12	21	朝日新聞社	新聞	天皇と日本政府は国民統御の一手段	日本占領の目的と政策とする マ元帥の声明。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2456	F 78	朝日新聞	1945	昭和20年	12	22	朝日新聞社	新聞	翼賛会等の関係者 立候補を許さず 米の対華四原則 トルーマン大統領声明	マ司令部 総選挙へ考慮。 民主的統一政権 実現後に経済援助。
2457	F 79	朝日新聞	1945	昭和20年	12	23	朝日新聞社	新聞	食糧の手持は十分と マ司令部保健厚生部長声明 石炭増産の成否は日本政府の責任とマ司令部が強調 公平、誠実の裁判 征服者の意志強制しない	配給の不円滑 金持の独占を指摘。 石炭増産施策の即時実行を指令。 国際裁判のキーナン主席検事談。
2458	F 80	朝日新聞	1945	昭和20年	12	24	朝日新聞社	新聞	今後は教育と指導にあると、マ元帥 日本の占領目的再確認	日本の民主的再建は 主として日本自体の問題と声明。
2459	F 81	朝日新聞	1945	昭和20年	12	25	朝日新聞社	新聞	国共の抗争解決へ トルーマン大統領が訓令	国府蒋介石主席主宰による 中共周恩来副主席との政治協商会議に 米トルーマン大統領特使マーシャル元帥が南京入り。
2460	F 82	朝日新聞	1945	昭和20年	12	26	朝日新聞社	新聞	米不足1800万石 供出は割当の一割と農林省 主食 燃油とリンク制 鮮魚増産に新対策を農林省	本米穀年度の需給推算で数ヵ月後には危険な状態になる。 配給計画と標準協定価格を協議決定する。
2461	F 83	朝日新聞	1945	昭和20年	12	28	朝日新聞社	新聞	自由公正の選挙を強調	地方長官会議で首相訓示。
2462	F 84	朝日新聞	1945	昭和20年	12	29	朝日新聞社	新聞	華族 世襲財産法廃止 政府来議会へ提案 選挙干渉を厳戒 正しき総意を議会にと 首相	法律上の特権を剥奪するもの。 民主政治の中軸たる帝国議会の運営に期待示す。
2463	F 85	朝日新聞	1945	昭和20年	12	30	朝日新聞社	新聞	封建の中核を打破、強権支配を剥ぐ	マ司令部 天皇制に見解表明。
2464	G 1	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	1	中部日本新聞社	新聞	新日本建設の大詔渙発、五箇条の精神で奮起、君民の紐帯は相互信頼 マッカーサー元帥年頭の声明、自ら統治する権利、“日本の暁”は訪れた	天皇陛下は元旦に特に大詔を発せられ、新日本の建設に対し国民の心がける道を御昭示あらせられた。愛家愛国の心を拡充し人類愛の完成に献身的努力を致すべきこと、君民の紐帯は相互の信頼と敬愛とに依り結ばれるもので、単なる神話と伝説によって結ばれたものではないこと、天皇を現御神とし国民を他民族に優越せる民族にして世界を支配すべき運命を有する如き架空の観念に基づくものではないことを断言された、政務中の天皇陛下の写真あり。 日本にとって新しい暁が訪れた、軍国主義、封建主義、心身に加えられた強権による規制などの枷は取り除かれた、思想統制と教育の悪用は最早存在しない、全ての人間はいまや何等不当の抑制を受けることなく、信教の自由と言論の権利を享有し集合の自由も保障される。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2465	G 2	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	3	中部日本新聞社	新聞	日本の民主化に天皇は指導的役割 マ元帥詔書に満足声明 地理、歴史、終身廃止新学期から社会、政治等の初歩教授、マ司令部指令	この詔書によって天皇は日本国民の民主主義化に指導的役割を果そうとしておられ、明確に自由主義の線に沿って将来に臨んでおられる旨、マッカーサー元帥は声明を發した。 マッカーサー元帥は軍閥の軍国主義と極端な国家主義の型に学童の心をはめこんできた日本歴史、地理、修身各科目の廃止を指令し、社会、経済、政治の各真実についての初歩の学習を主眼とする新計画に置き換えることを命じた。
2466	G 3	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	4	中部日本新聞社	新聞	マ元帥日本管理報告、経済は極度に逼迫、食糧300万トン輸入要す 知事公選を実施、5月頃地方議会解散	日本占領管理に関するマッカーサー元帥の報告書発表、項目は次の通り:日本民主化の基礎工事、日本政治活動の貧困、日本人再教育、朝鮮問題と日本人労力問題、在日外人数、日本軍人の復員、日本経済力の低下。 内務省は地方制度の民主化を企画し特別議会に提案する方針、新地方制度においては知事の公選を中心とする府県の自治制強化並に市町村の徹底的自主化あるいは警察行政権の自治体帰属など主要問題の解決を要する。
2467	G 4	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	5	中部日本新聞社	新聞	軍国主義諸団体禁止令、マッカーサー元帥発出、黒龍会、大東亜協会等27団体へ解散命令、指導者は公職から追放	マッカーサー元帥は日本の政治界から軍国主義の影響を除くことを目的とする重大指令を發し、27の極端な国家主義的諸団体および関係諸団体に解散を命じ、更に日本政府に対し日本の世界平和に対する裏切行為を立案、指導した一切のものを政府組織から一掃すべきことを命じた。
2468	G 5-1 5-2	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	6	中部日本新聞社	新聞	内閣改造か総辞職 堀切、松村、小笠原氏等閣僚大半が該当者 重大指令の影響甚大 根本的に教育も改革、米教育使節近く訪日	マッカーサー指令により政府は総辞職か内閣改造かの重大岐路に立つに至った、政府はマ司令部の意図打診とは別に右翼団体の解散、解散団体あるいは職員に関する報告書作成を早急に行う。 マッカーサー元帥はワシントンへ打電し、米国における最優秀教育者一行を日本に訪門させるよう要請した、日本の教育刷新に留意していること並に過去多年に亘る日本の悪弊除去のため罰則を加えることのみを専念している訳ではないことを物語る。
2469	G 6	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	7	中部日本新聞社	新聞	マ司令部の意向打診、幣原内閣進退を決定 在外将兵居留民の復員状況、今年9月完了の見込み	マッカーサー司令部の指令はわが政治、経済の全面に亘って一切の封建軍国主義的残滓を一掃せんとする峻厳なもの故、内閣の危機は日時の経過を俟って払拭するどころか返って濃化すると見られるため決断が急がれる。 復員将兵360万人、朝鮮・支那・台湾などの各地に在住する一般人330万人、合計約700万人の内地帰還問題は極度の船舶不足と食糧難のため相当困難が予想されたが、米軍輸送船の多大援助のお陰で順調に進捗中。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2470	G 7-1 7-2	中部日本新聞 (裁断がずれている)	1946	昭和21年	1	8	中部日本新聞社	新聞	内閣改造で行く、時期は首相登庁後 マ元帥に内閣指名権、不可欠の人材に非ざる限り即時追放	マッカーサー司令部からの軍国主義者の官公職からの追放令に政界は異常の空気に包まれている。 マッカーサー元帥の軍国主義者追放令の結果、幣原(してはら)内閣が瓦解するような場合には同元帥に後継内閣指名の権限があるとの考えを米國務省当局者が言明した。
2471	G 8	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	9	中部日本新聞社	新聞	強固なる公民完成、文相・各学校長へ訓示 財閥解体の処理、エドワード団長一行着京 戦犯容疑者の名簿、官職追放組から作成	天皇陛下は本年元旦に大詔を發せられ、わが国将来への道標をご昭示されたが、これを受けて前田文相は8日全国直轄学校長、公私立大学、高専校長、地方長官宛訓令を發し、教育教化に当る者の一層の奮起と責務の完遂をなすべきことを説示した。 マッカーサー元帥の指令に基づく日本財閥その他財界の解体事務遂行上、勸告機関として任命されたエドワード氏を首班とする8名の使節団が東京に到着した。 連合軍最高司令部防諜部長ソープ代将は、先日發せられた政界肅正指令に抵触する政府高官多数が日本戦争犯罪容疑者の收容名簿に包含されることとなろうと語った。
2472	G 9	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	10	中部日本新聞社	新聞	改造切抜は困難、大命再降下で総選挙か 追放該当者は2万人、高度の新人政府を期待、米紙論調	改造か総辞職の岐路に立つ幣原内閣は総辞職により人心一新を図り、総選挙執行までの中間内閣が実現するのではとの観測を示した。 ニューヨーク・ポスト紙記者ペリガン氏はマッカーサー元帥の右翼団体解散および軍国主義者追放に関する命令に関して、指令に該当する者は総数2万人に及び旧官僚制度の基礎は押しつぶされる訳だが空職となった所を若い人に補充してもらい、旧体制に禍いされない政府が望ましい旨論じている。
2473	G 10	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	11	中部日本新聞社	新聞	財政再建の三税法案発表、総収入は1000億円、1回限りの課税、戦時利得完全に払拭 内閣改造方針決定、司令部に最終的諒解求む 閣僚等の氏名報告、満州事変より三国条約迄	政府は戦後経済の安定及び国家財政の確立に資するため画期的な財産税・法人戦時利得税・個人財産増加税法案要綱を發表した。 4日のマッカーサー指令以来1週間に亘り昏迷を続けた政局も10日に至って内閣改造の方向で漸く曙光を見出した。 連合軍最高司令部は1931年から1940年の三国条約までの期間における首相を含む主要閣僚等の氏名と任期を報告するよう政府宛通告した。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2474	G 11 -1 11- 2	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	12	中部日本新聞社	新聞	幣原内閣改造に決定、六閣僚の進退熟慮、後任けふ中補充、首相・選考を急ぐ 日本の民主化進捗状態に満足、来朝中の米陸軍長官声明 占領政策を検討、極東委員会活動を開始	幣原内閣は11日の閣議で改造を以て時局を乗り切ること決定した、マッカーサー司令部とも十分連絡をとりつつ急速に改造を進め、12日中には親任式挙行の運びとなる見込みとなった。 米陸軍長官パーソン氏はマッカーサー司政下における日本の民主主義化の進捗状況に満足するとともに、進駐米将兵が対日処理という困難な仕事を立派に完遂している旨強調した。 極東委員会は3週間の予定で現状調査活動を開始した。同委員会はマッカーサー司令部の占領問題を徹底的に研究する計画である。
2475	G 12 -1 12- 2	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	13	中部日本新聞社	新聞	幣原内閣改造成る、内相に三土忠造氏、農相副島、文相に安倍氏 外紙の論ずる天皇制	マッカーサー司令に対処する幣原内閣の改造工作は12日をもって完了し、13日中に親任式が行なわれることになった。 新年初頭の天皇の神格を否定する天皇制のあり方に関する詔勅はマッカーサー元帥の支持を受けた、今度の詔勅が天皇制そのものの維持に関する限り極めて効果的であり、民主的天皇の容認される外殻の基調をなしたものと解釈される。
2476	G 13	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	14	中部日本新聞社	新聞	昨夜親任式挙行、マ司令部の諒解成る 総選挙の施行許可、期日は3月15日以後	13日夜マッカーサー司令部より諒承の旨回答があったので同夜9時過ぎ親任式が執り行なわれた。 マッカーサー司令部は政府の総選挙に関する諸態勢に慎重な検討を加え、軍国主義的指導層の公職就任禁止の指令に対する政府の措置を促進し、総選挙執行段階に到達したと認めた。
2477	G 14 -1 14- 2	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	15	中部日本新聞社	新聞	内閣改造後の進路簡明、民主化への産婆役、残存特権を払拭、貴院改革等五大目標遂行 「祖国に寄す」野坂参三氏談	幣原内閣の再発足に当り檜橋新書記官長は、幣原内閣が中間内閣であり、政府の使命が民主主義政治確立のための産婆役であることを認めることなどを明らかにした。 中国共産党の本拠延安にあった野坂氏は15年ぶりに日本へ帰ってきた、以下、談話の項目：前途に光明を感じる、人民戦線の結成、歴史の書き直し、戦争責任の追求、民主化の道は一つ。
2478	G 15	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	16	中部日本新聞社	新聞	内務・農林行政を連繋、食糧の危機を突破、外米依存よりも供出促進 麦作の育成状況、中部日本各県概観	政府はこの際徒に外米輸入に頼ることなく能う限り自力をもって供出を完遂し、当面の食糧危機を切り抜けることが絶対の責務であるとし、統制の強化、行政力の強行も辞せない決意を示した。 数十年來の不作である米穀不足を補い国民を食糧不安から救うためには麦の目標額増産必達が絶対的に要請される、中部各県の状況を概観する。
2479	G 16	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	17	中部日本新聞社	新聞	憲法改正を期して総選挙後も居据か	幣原内閣は閣僚の更迭により一応危機を脱したが、総選挙後の新議会に政府の信を問ひ、場合によっては再解散辞せずとの態度。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2480	G 17	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	18	中部日本新聞社	新聞	如何なる政党も連合軍は支援せず 共・社両党の接近 ー共産党、声明ー 財産税は早急に実施	総司令部は記者団に次のように答ふ、日本民主化は国民の責任である…。 両党の支部は各地で共同闘争をつづけてきており、今後ともこの共同闘争を一層強く発展させる心算である。 最近の通貨金融情勢は財産税などの実施延期を許さぬ状態に発展しつつある。
2481	G 18	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	19	中部日本新聞社	新聞	主要食糧の管理強化 生鮮食料品再び統制実施か ー農林省意向ー 更に戦犯逮捕令 天皇を戦犯に ー濠、新西蘭が指名ー	政府は供米の確保のため食糧管理の全面的強化を断行、必要な場合は農民から強制的に買上げ、農民は否応なしに割当量を供出、これに対し全国農業会は強権発動に反対の態度を表明。 生鮮食料品の公価撤廃以来、量は豊かに出回りだったが価格の点では一般国民には手が届かず再び価格統制を検討。 連合軍総司令部は戦争犯罪容疑者111名の逮捕を日本政府に命令。 豪州及ニュージーランドは天皇を日本の主要戦争犯罪人として挙げてみると伝える。
2482	G 19	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	20	中部日本新聞社	新聞	米強制買上げの波紋	主要食糧の管理強化の勅令の公布を前に農林省はその基本方針を発表、これに対し社会党は農民威嚇の政策に反対を表明。
2483	G 20	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	21	中部日本新聞社	新聞	婦選の将来期待	3月15日以降において行はれる総選挙に日本始めて以来初めて婦人大衆が参加するが、婦人将校ウィード中尉は次の如く語った。……
2484	G 21	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	22	中部日本新聞社	新聞	自由党の憲法改正要綱 統治権、主体は国家 天皇に政治責任負はせず	自由党は結党以来、天皇制維持をスローガンにして来たが、ここに国家法人説の立場を明らかにしたことは注目される、同党の改正要綱は左の如し。
2485	G 22	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	23	中部日本新聞社	新聞	工場・工廠等施設四百賠償用に保全命令 予想以上にある日本の賠償能力 ーマ氏明言ー	マッカーサー元帥は、総数四百に上る日本航空機工場、陸海軍工廠、軍需関係研究施設を接收し、賠償用に保全することを命じた。 米対日賠償委員団副委員長マクスエル氏は日本は想像以上の賠償能力をもってゐると言明、賠償の範囲と量は近く決定。
2486	G 23	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	24	中部日本新聞社	新聞	極東国際軍事裁判所設置	マッカーサー元帥は国際軍事法廷を設置することを命令、第一回裁判期日は三月以後となる模様。
2487	G 24	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	25	中部日本新聞社	新聞	統一戦線の結成は総選挙前に実現 敗け肥りを許さず 本社調査、財産増加税の声	民主統一戦線結成は総選挙前にその実現を図りたいと共産党指導者「野坂参三」氏語る。 戦争は儲からぬものであることを戦時成金が銘記するための勤労以外の儲けに対しては100%の課税で吐き出せ。
2488	G 25	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	26	中部日本新聞社	新聞	昨年進駐軍経費 7億119万2千余円 国民与論の動向 「首相への投書」	昨年九月連合軍の本土進駐以来、昨年未までの間にわが国で使用された経費の累計が判明した。 国民与論の動向を反映する総理大臣宛て投書(12月16日から1月15日迄)総数337通の分類がまとまった、政治問題では天皇制に関心。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2489	G 26	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	28	中部日本新聞社	新聞	立候補確実の新人既に 一千二百余名 民主戦線の新展開	戦後日本初の総選挙は3~4月に行われるが、政界 粛清で無所属が圧倒的。 中部日本新聞座談会で、細川嘉六、山川均、水谷 長三郎、野坂参三氏語る。
2490	G 27	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	29	中部日本新聞社	新聞	強力な民主戦線結成近 し 朝鮮臨時政府樹立迄米 ソが信託管理 肥料三倍に値上げ	時期は総選挙前か、社会党今日態度表明。 アメリカ国務省東亜局長語る。 1月に遡って値上げ。
2491	G 28	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	30	中部日本新聞社	新聞	総選挙三月三十一日に 執行 米軍太平洋総司令部東京 へ 繭増産に五カ年計画 渡る世間に人情警官	特別議会4月20日頃召集。 マニラにあった総司令部が東京に移ることになっ た。 大豆畑も桑園へ。 薄給の身で戦災孤児の親代り。
2492	G 29	中部日本新聞	1946	昭和21年	1	31	中部日本新聞社	新聞	歴史は真実基調に日本 人の手で書替 日本占領米軍三十万以 下に 女性候補者は叫ぶ	文相、民官情報教育局長ダイク代将と会談。 7月までに実現と米陸軍長官言明。 家庭、政治を結べ、食生活と育児の重圧。
2493	G 30	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	1	中部日本新聞社	新聞	四月中に国政調査 憲法改正日本政府の責 任 日本完全民主化に占領 二十年継続	司令部が失踪者、農民調査を目的に指令。 マッカーサー司令部は助言と協力。 来朝中の極東委員会一行語る。
2494	G 31	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	2	中部日本新聞社	新聞	政府の憲法改正案、選 挙と同時に公表 国民の 批判狙上に 供出は依然不振	連日閣議、慎重に検討。 食糧需給の成否を決する供米状況は引続き不良。
2495	G 32	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	3	中部日本新聞社	新聞	民主中国の道拓く 軍人の恩給廃止	中央及び民主同盟と国民党の間で臨時政府樹立 等円満妥結。 マッカーサー司令にもとづく勅令公布。
2496	G 33	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	4	中部日本新聞社	新聞	連合軍、日本領域を指 定 憲法改正審議会月内に 設置 皇室典範改正は 不必要 欲しい家と布団	千島、小笠原を除外 対馬、琉球は認む。 松本国務相談。 引揚者はどうしている。
2497	G 34	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	5	中部日本新聞社	新聞	改革への占領序曲 民 生安定に政府無能力 無量の感慨乗せて行き 交う復員船	占領6カ月の日本を見たAPラッセル・ブライズ氏 記す。 博多と釜山、上海を結ぶ引揚用艦船は60隻。
2498	G 35	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	6	中部日本新聞社	新聞	食糧問題の打開へ 民 間人主に審議会設置	食糧問題打開策の一環として21年産米から専売制 を実施すべく審議会の設置を決定。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2499	G 36	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	7	中部日本新聞社	新聞	選挙に臨む各党の政策 五百万を推定 捕虜十九万を虐殺	社会党、天皇制を大巾制限 肥料国営、土地を制限。 厚生省の失業者推定。 独軍の残虐 ポーランドで死体発見。
2500	G 37	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	8	中部日本新聞社	新聞	山下大将死刑確定 天然痘・発疹チフスの恐怖 名古屋駅・春の装い	マッカーサー元帥裁決。 天然痘、チフスが蔓延の一途を辿り、行政は痘苗入手に大童、進駐軍はDDTで応援。 お白粉料が4万5千円。
2501	G 38	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	9	中部日本新聞社	新聞	社会党、対幣原内閣態度闡明(せんめい)	政府は資本閣擁護、運賃値上反対、補償打切れ。
2502	G 39	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	10	中部日本新聞社	新聞	追放指令の適用範囲 五割は女子職員	推薦議員の該当濃厚、指令は峻厳に履行、悲喜交々の各党。 名鉄局今日整理断行。
2503	G 40	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	11	中部日本新聞社	新聞	前代議士殆んど潰滅 六氏に文化勲章 供出 中部日本進捗状況 けふ紀元節	革命的総選挙実現、社会党の進出を予想。 仁科博士、岩波氏らの栄。 平均5割3分、生産県ほど不活発。 日本民主化を御軫念、平和御愛好の皇室。
2504	G 41	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	12	中部日本新聞社	新聞	講和条約 マ司令部見解を表明 ソ連対日参戦を約束 既に二十五万帰還	責任政府既にあり、独より締結は容易。 米英ソ3国は1945年3月ヤルタに於てルーズベルト、チャーチル、スターリン3巨頭間で締結された秘密協定を発表。 支那大陸よりの復員状況。
2505	G 42	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	13	中部日本新聞社	新聞	争議は自由で公明 失業救済の根本対策	争議に随伴する不法行為の取締法案成る。 増産・民需生産振興にあり。
2506	G 43	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	14	中部日本新聞社	新聞	日本の食糧危機に小麦等を輸入援助 日本民主化は成功 お寒い春の美展	現在は不足より配給に欠陥とマ司令部代言人談。 連合軍最高司令官が「日鮮管理報告」で発表、食糧生産長期に悪影響。 出展者の氣勢あがらず。
2507	G 44	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	15	中部日本新聞社	新聞	抜本的なインフレ防止 総合施策を樹立 煙草四月から五本配給 中京の餓死者二百三十九名	自由販売は3年後か。 本年1月始めから2月10日迄に名古屋市内の街頭で倒れた死者115名、餓死状態で収容された人124名。
2508	G 45	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	16	中部日本新聞社	新聞	小林無任相を始め追放 公吏は数万 原子爆弾実験は五月十五日 今春ひらく六大学野球	貴族院肅正断行も計画。 米海軍長官はビキニ環礁での原爆実験の第1回は5月15日、第2回は7月1日の予定と言明。 現役選手だけではなく、先輩と合同でリーグ戦を行う。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2509	G 46	中部日本新聞 (2部あり)	1946	昭和21年	2	17	中部日本新聞社	新聞	インフレ抑圧施策の全貌 新円一人当り百円 国民生活の安定に挙国 危局を打開 強制買上げ実施	あすから預金封鎖、食糧確保に全力注ぐ、いよいよ 非常管理を断行。 引換は2月25日から12日間。 日本再建の基盤を確立と首相談。 生鮮食料品に再統制。
2510	G 47	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	18	中部日本新聞社	新聞	生計費を基準に最低賃 金制確立 天皇を保持 莫大な隠匿物資	今週中に具体案決定。 米の意図に英も賛意。 電球のみでも300万個。
2511	G 48	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	19	中部日本新聞社	新聞	重要工場に指定制 原子爆弾の秘密漏洩 東山米軍基地が横浜へ 移転	物資面の裏付大綱も決り、資材等政府が積極支 援。 全米に衝撃、相手はソ連か、カナダにおいて。 東山植物園内米軍基地に埋葬中の米軍将校の遺 骨は横浜へ移り、7月に米本土へ送還される。
2512	G 49	中部日本新聞 (2部あり)	1946	昭和21年	2	20	中部日本新聞社	新聞	インテリ失業者を救済 政治と文化 私の夫や倅の生死は	応急策決まる、官庁等で1か年の間事業を実施し、 国庫補助で身分、生活保障。 田中耕太郎学校教育局長、純潔性をば尊べ。 遺族の相談所は大賑い。
2513	G 50	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	21	中部日本新聞社	新聞	日本の再建には二、三十 年を要す 天皇陛下優しいお言葉 の数々	幣原首相AP会長に語る。 復員、引揚民を御激励。
2514	G 51	中部日本新聞 (2部あり)	1946	昭和21年	2	22	中部日本新聞社	新聞	指令抵触は約三百人 千島と南樺太正式にソ連 領有	あす立候補資格確認申請に対し確認書を発表。 ソ連最高会議幹部会は千島と南樺太を一州とし、 ハバロフスク地方に編入する法令を公布。
2515	G 52	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	23	中部日本新聞社	新聞	反共連盟へ前進 労組法三月から施行 終戦六日前に降伏 捕虜 も五十九万余りに 弱 かった関東軍	自由党国体護持派を一丸とし、天皇制支持の立場 から反共運動を展開すべく声明を出した。 労働組合法。
2516	G 53	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	24	中部日本新聞社	新聞	山下奉文大将死刑 生糸、陶磁器等輸出	きのう午前3時執行。 本年度輸出計画。
2517	G 54	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	25	中部日本新聞社	新聞	御料林、木材等の七割 三分御下渡し 制服も他生徒と同じ けふから新円交換	旧本丸90万坪も開放へ。 皇太子さま民主的御勉学。
2518	G 55	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	26	中部日本新聞社	新聞	総選挙延期、四月十日に 執行 地方長官会議開く	生産増強ならずんば経済対策も画餅、国民全部正 業に就こう。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2519	G 56	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	27	中部日本新聞社	新聞	軍人軍属の退職金悉く国庫に没収 終戦連絡中央事務局次長に白洲氏 薪炭六割が闇へ	勅令公布・今日から実施。 白洲次郎氏を起用することを26日の定例閣議で決定。 都市の燃料難深刻。
2520	G 57	中部日本新聞	1946	昭和21年	2	28	中部日本新聞社	新聞	公職追放勅令を公布 大根5円、鰯が13円	軍人占領地行政長官等該当範囲を規定。 あすから魚菜の廉売制。
2521	H 1	朝日新聞	1946	昭和21年	1	1	朝日新聞	新聞	平和国家へ建設の年ひらく なすべきことを覚れ 引揚完了40万人失業予想 340万人 腹一杯へ新しい年の発	海外同胞に御軫(しん)念。いばらの道開拓の御日常。 マ元帥年頭の声明。 250万の内地部隊はすでに復員を完了したが在外部隊は40万人引揚完了するも、なお現地にある者350万人。 飛行場も平和を寿ぐ麦畑。
2522	H 2	朝日新聞	1946	昭和21年	1	3	朝日新聞	新聞	畏し詔書渙発 年頭の詔書に満足 許可あるまで廃止 神道廃止と初詣	国民の利害休戚と共に困苦克服に勇往。 マ元帥声明。天皇自由主義的立場に立つ。 修身、日本歴史、地理の3科目。 解けた「立入禁止」。交通難から参詣者少し。
2523	H 3	朝日新聞	1946	昭和21年	1	4	朝日新聞	新聞	土木・電力開発に国土省(仮称)を新設 石炭全員丸々太り元旦も休まぬ大鉄局挺身隊	行政機構の改革がなされた。 石炭危機が国鉄の危機にまで及び大阪鉄道局の増産 挺身隊750名が筑豊の石炭鉱山に入山。
2524	H 4	朝日新聞	1946	昭和21年	1	5	朝日新聞	新聞	政界の肅正徹底的に断行 マックアーサー元帥重大指令 国共相克依然激烈 欧州の迎春風景	軍国的団体を解散、公職より悉く追放、戦罪者、陸海軍首脳ら。 満洲で国共両軍戦闘激化。 平和に遠い飢餓。“天国”スイスも燃料不足。
2525	H 5	朝日新聞	1946	昭和21年	1	6	朝日新聞	新聞	官・政界の肅正指令 政局重大危機に直面	立候補の資格剥奪。望ましからぬ人物の公職よりの罷免・排除に関する覚書。 現下日本の政界を形成する主なる人々はほとんど官公職から追放される結果となり政局へ影響。
2526	H 6	朝日新聞	1946	昭和21年	1	7	朝日新聞	新聞	今や正に無血革命、道は一つ、邁進克服のみ 改造か一斉辞職か苦境に立つ幣原内閣	マックアーサー司令による公職追放は大規模で正に無血革命というべきものである。今回の指令は国民に真の前進と決断を固めるべき機会を与えられたもの。 内閣の態度は吉田外相のマ司令部訪問後の臨時閣議で決まる。
2527	H 7	朝日新聞	1946	昭和21年	1	8	朝日新聞	新聞	抵触閣僚の退陣求め改造で政局切り抜け 繰り出した五万人	臨時閣議で方針決定。 新生へ活気づく筑豊炭山
2528	H 8	朝日新聞	1946	昭和21年	1	9	朝日新聞	新聞	立候補の届出毎に指令該当者を審査 後継内閣 マ元帥に指名権 復興する金鯉城	名簿作成間に合わず。 名古屋市は、復興都市計画事業に合わせて名古屋城復興を内定。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2529	H 9	朝日新聞	1946	昭和21年	1	10	朝日新聞	新聞	悪性インフレ克服へ不健全な融資抑制 貴族院令改正案要綱	銀行協会の申合せ。 勅選銓衝に特別機関を設け、議員数の大幅削減や多額納税議員を廃止、職能代表を入れる。
2530	H 10	朝日新聞	1946	昭和21年	1	11	朝日新聞	新聞	三新税法律案決定 出版会も肅正へ	インフレ防止を狙う財産税、個人及び法人戦時利得税の3法律案を大蔵省発表。 近く出版界にも軍国主義的、超国家主義的分子駆逐の措置がとられようとしている。
2531	H 11	朝日新聞	1946	昭和21年	1	12	朝日新聞	新聞	必死の延命工作で内閣改造に決定 人類生か死かの道 今冬は何故暖い？	国際連合第1回総会が10日ロンドンで51カ国700名の代表が集まって開かれた。イギリスのアトリー首相は開会の辞で国際連合の意義について述べた。原因は火星の接近。
2532	H 12	朝日新聞	1946	昭和21年	1	13	朝日新聞	新聞	内閣改造具体工作 降伏時の真相①迫水久 常氏手記	入閣交渉開始さる、早急に完了の見込み。 13日～19日連載、掩い(おおい)難しい物量の不足。
2533	H 13	朝日新聞	1946	昭和21年	1	14	朝四新聞	新聞	内相に三土忠造氏 還ってきた野坂参三氏	文相安部能成氏等閣僚人事内定。 急務は戦線結合、天皇制は党の方針で。 延安こそ完全な民主主義の国家。
2534	H 14	朝日新聞	1946	昭和21年	1	15	朝日新聞	新聞	総選挙期日にマ指令三月十五日頃施行 昏迷打開のために人民戦線結成へ 邦人刺殺米兵に死刑 慶応連勝す	自由公正な意思表明を求める。 人民戦線を求める声が巷間に高くなってきた。 米軍法会議が宣告。 早慶野球第二日、早大投手伊達、慶大投手別当。
2535	H 15	朝日新聞	1946	昭和21年	1	16	朝日新聞	新聞	特権勢力を払拭 中国から塩”来援”	民主政治の確立へ。内閣改造の意義檣橋幹事長語る。
2536	H 16	朝日新聞	1946	昭和21年	1	17	朝日新聞	新聞	地方長官の更迭	辞表提出範囲に限定。
2537	H 17	朝日新聞	1946	昭和21年	1	18	朝日新聞	新聞	社会党具体的政策を決定 元特攻隊長共産党に入党 木炭飢饉”山”は怯える	重点産業の国有等漸進的社會主義化。労組の経営管理実現。 裏切られた”純真”。嘘で固めた戦争を憎む。 厳冬期を迎え殺到する強制買出しが”山”の恐怖時代現出。官公署の大口買付けや徒党を組んだ脅迫的買付けも。
2538	H 18	朝日新聞	1946	昭和21年	1	19	朝日新聞	新聞	民主的政党は総て同等の取扱を受く 磯谷中将三百十名戦争犯罪者に指名	連合軍当局態度を闡明。 マ司令部指令。
2539	H 19	朝日新聞	1946	昭和21年	1	20	朝日新聞	新聞	米の強制買上断行生鮮食料品再統制へ 米、船舶百万トンを貸与見よ、この女性	食料管理強化に緊急勅令。 復員用に政府急ぐ。 細腕で支う一家七人。夫の復員待ち、寒夜のゴカイ採り。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2540	H 20	朝日新聞	1946	昭和21年	1	21	朝日新聞	新聞	食糧管理強化へ民主戦線結成急調 新生する大学 全国中等学校優勝野球大会、今夏から復活開催	社会、共産両党提携か。 左翼教授ら復帰、学長公選や肅学徹底へ。 社会情勢の許す限り。
2541	H 21	朝日新聞	1946	昭和21年	1	22	朝日新聞	新聞	内務人事二十五日に閣議へ 天皇制と総選挙 引揚船極力増強 先生の単一組合	辞意表明知事は既に20名。 政党は所信を闡明し国民の批判に俟て。 南西方面、祖国を偲ぶ72万8千人。 「全国教員組合」と「教育者組合」が合流。
2542	H 22	朝日新聞	1946	昭和21年	1	23	朝日新聞	新聞	供米への強権発動は悪質者のみが目標 民間の二憲法改正案	政府声明す。 統治権は国家に。責任内閣制度を確立。
2543	H 23	朝日新聞	1946	昭和21年	1	24	朝日新聞	新聞	同種産業部門の独占企業体阻止 押しかけた三千人米、木炭など丸公の半値で配給 日本で最初の女助役	財閥傘下会社に指針。 元陸軍省造兵廠倉庫から大豆、木炭、米の大量の隠匿物資が発見され、板橋、玉野川住民三千人が押しかけ区長は、それらを丸公の半値で区民に譲ることとした。 呉市で高良女史。
2544	H 24	朝日新聞	1946	昭和21年	1	25	朝日新聞	新聞	極東軍事法廷マ元帥開設を命令 生きる為の強権発動に消費者の支持を セブ島の悲劇	いよいよ3月より開始か。峻厳なる裁判要求。 幣原首相記者団と会見。 老幼同胞に刺殺命令。
2545	H 25	朝日新聞	1946	昭和21年	1	26	朝日新聞	新聞	日本の歳出を削減 低調な各党の食糧対策	極東委員会へ米軍当局説明。 農民心理に神経質。需給の認識欠く。
2546	H 26	朝日新聞	1946	昭和21年	1	27	朝日新聞	新聞	上官の命と言えども犯行に責任あり 自主的に供出を 宙に迷う遺骨	マ司令部法律部長B級C級戦犯について語る。 全農近畿支部は供米について強権発動の停止を要請。 上陸地に2万柱。
2547	H 27	朝日新聞	1946	昭和21年	1	28	朝日新聞	新聞	食糧の退蔵は不要 必要に応じて輸入 インフレ月給袋を追い越す 鉄道運賃大幅値上げ	総司令部当局言明。 食料の不安除去が急務。 石炭鋼材等が値上りしたため旅客2.5倍。貨物3倍の運賃値上げ。
2548	H 28	朝日新聞	1946	昭和21年	1	29	朝日新聞	新聞	産業民主化三法案特別議会に提出急ぐ 労組法来月中旬に施行 伊勢の神宮祭祀に儀仗兵を禁止	産業秩序法案、経済組合法案、商工会議所法案。 石炭、肥料等に重点統制を再び強化。 官公吏の争議政治化を禁止。
2549	H 29	朝日新聞	1946	昭和21年	1	30	朝日新聞	新聞	総選挙三月三十一日 小作解放95万町歩 中等野球界展望	更に第二、三改革を研究。 続々と野球部復活。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2550	H 30	朝日新聞	1946	昭和21年	1	31	朝日新聞	新聞	二月中に資格審査、事前運動は依然禁止 各党のインフレ対策 村の顔役を追放	立候補せんとする人は公職に就き得る資格があるか、どうかについて事前に審査をうけることができる。 復員青年の「肅清旋風」。
2551	H 31	朝日新聞	1946	昭和21年	2	1	朝日新聞	新聞	天皇の地位を審議 今後の文教政策歴史書 換へ慎重に	憲法改正案、閣議で検討開始。 「決定迄教えぬが適当」と安部文相とダイク准将話し合う。
2552	H 32	朝日新聞	1946	昭和21年	2	2	朝日新聞	新聞	憲法改正マ司令部が審査 英軍進駐正式発表	憲法改正について基本的な責任は日本国民が負うべきとポ宣言にはあるが、マ司令部は審査権を持つ。 英軍は日本占領に参加するが米政府は中国・ソ連にも占領の招請状を出したが中国は用意なく、ソ連は招請状を受諾しなかった。
2553	H 33	朝日新聞	1946	昭和21年	2	3	朝日新聞	新聞	英連邦軍の広島地区進駐 暴行脅迫を処断	先遣隊呉に接近。ソ・華・カ軍不参加。 健全争議へ政府声明。
2554	H 34	朝日新聞	1946	昭和21年	2	4	朝日新聞	新聞	公安乱さぬ労働争議・警察の干渉許さず 憲法改正御退位考慮せず	マ司令部見解。 調査会の審議一先ず終了。
2555	H 35	朝日新聞	1946	昭和21年	2	5	朝日新聞	新聞	原棉二十万トンの速かなる輸入必要 三十万六千五百名広島 の原爆被害者 体重減、結核跳梁にさし 当り三方策	連合軍総司令部の表明。 死者78,150名 学校給食の強化、アデノイド(腺様増殖症)処置、BCGの拡充。
2556	H 36	朝日新聞	1946	昭和21年	2	6	朝日新聞	新聞	供米一千万石突破 沖縄、小笠原諸島等米 軍単独信託統治か 靖国神社臨時大祭	供米成績が上昇しつつある。 4月30日に3万柱合祀。陛下は個人として御参拝。
2557	H 37	朝日新聞	1946	昭和21年	2	7	朝日新聞	新聞	農民組織再発足へ 防犯 大阪からも尼さん立候補	日農いよいよ9日に結成。 犯罪の温床は闇市
2558	H 38	朝日新聞	1946	昭和21年	2	8	朝日新聞	新聞	対日独平和条約二年四箇月内に締結 山下元大将死刑確定	米、英、ソ三国外相会議に米政府提案か。
2559	H 39	朝日新聞	1946	昭和21年	2	9	朝日新聞	新聞	教育民主化の基本	教育の理念叩直し。文教の懸案解決へ。米使節団の援助に期待。
2560	H 40	朝日新聞	1946	昭和21年	2	10	朝日新聞	新聞	追放指令の該当範囲決る 食糧自給絶対不能、人口解決には産児制限	推薦代議士の全部。翼賛、翼壮関係の幹部。 マ司令部当局示唆。
2561	H 41	朝日新聞	1946	昭和21年	2	11	朝日新聞	新聞	追放決定と各政党、鳩山総裁も抵触 ご団欒の陛下と皇太子	進歩党党員の殆どが失格。 写真。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2562	H 42	朝日新聞	1946	昭和21年	2	12	朝日新聞	新聞	追放旋風下の政党、進自両党提携か ニューギニア沖の船呼ぶ”俊寛”	新旧勢力の対立必至。(進自両党は、日本進歩党と日本自由党) 帰国を待つ将兵1万余。
2563	H 43	朝日新聞	1946	昭和21年	2	13	朝日新聞	新聞	講和締結は直に国交回復意味せず 暴力革命行わず、私有財産制は認む 日華関係の今後 彷徨より創造へ	マ司令部見解 共産党新綱領。 頭を切替えて出直せ。”弱小日本”の民主化が先決。 南原東大総長建国の意義を説く。
2564	H 44	朝日新聞	1946	昭和21年	2	14	朝日新聞	新聞	立候補資格申請二千四百突破	新人が圧倒的。婦人38。
2565	H 45	朝日新聞	1946	昭和21年	2	15	朝日新聞	新聞	インフレの抑圧に総合対策断行せん 満洲・北鮮の日本人	民生安定へ政府決意。 残留邦人は1万円以上の経済能力を剥奪され、住宅衣類家財道具を押収された上、配給もとだえ勝ちで衛生状態も悪中にある。
2566	H 46	朝日新聞	1946	昭和21年	2	16	朝日新聞	新聞	軍人、国策会社役員の追放指令範囲を検討 憲法制定国民会議高野博士ら設置提唱	高野博士を中心とした鈴木安蔵・森戸辰男氏らを中心とした憲法研究会議が設立を提唱。
2567	H 47	朝日新聞	1946	昭和21年	2	17	朝日新聞	新聞	インフレ阻止へ強力措置断行 男の失業を女に転嫁するな	今日から預金封鎖。親円交換を実施。 戦時中、男に代って職場を守った約10万人の女性職員のうち、女性に適当でない職種を男性に置き替えるだけの失業対策を社会党婦人部赤松女史が批
2568	H 48	朝日新聞	1946	昭和21年	2	18	朝日新聞	新聞	旧円三月三日失効、預入れは七日まで 経済危機緊急対策九項目	生活安定と再建へ。救国共助の実現。国民の協力を首相要望。
2569	H 49	朝日新聞	1946	昭和21年	2	19	朝日新聞	新聞	生産増強融資に積極敏速の方途 荒療治・生活にどう響く	確保せよ、生活必需物資。
2570	H 50	朝日新聞	1946	昭和21年	2	20	朝日新聞	新聞	証紙張付の旧券新券同様に通用 肥料の飛粉をお浴び 生鮮食品の二重価両三日中に実施	子沢山の家は辛い。いよいよ強い「物を持つ者」。 日本銀行券預入令特例。 天皇陛下戦災工場等を御視察。 生鮮食料品再統制までの臨時措置として仕入値と販売価格の差額を政府が負担。
2571	H 51	朝日新聞	1946	昭和21年	2	21	朝日新聞	新聞	民主攻勢に対抗して既成政党大団結か 天皇陛下脱帽で一々御答礼	公職追放により大打撃を受けた既成政党は、これを機に攻勢に出んとする社会主義政党への対抗策として大同団結を模索。 奉迎に民草みな感泣。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2572	H 52	朝日新聞	1946	昭和21年	2	22	朝日新聞	新聞	軍事補償の適正額積極的産業資金に	戦争で損害を蒙った企業に対する補償は打切るよりも産業起ち上り資金として支払う方が妥当との結論に達した。
2573	H 53	朝日新聞	1946	昭和21年	2	23	朝日新聞	新聞	野坂氏団變の家に帰る 追放指令該当者の政党幹部辞任要求 教育勅語に準拠し道徳的秩序確立 メートル法採用本決り	十六年ぶりに龍子夫人の実家へ。 政府きのう正式に方針表明。 田中学校教育局長文教の方針明示。 文部省は尺貫法との並用でなく、直ちに専用することに決定。
2574	H 54	朝日新聞	1946	昭和21年	2	23	朝日新聞	新聞	青少年労務者へ増配一般への特配も考慮 山下将軍の死刑執行	3月から食料等に対して強力的な価格統制が行われる中で配慮が考えられている。 マニラで23日午前3時2分ルソン島の虐殺の責任者として。
2575	H 55	朝日新聞	1946	昭和21年	2	25	朝日新聞	新聞	財閥解体政府の措置は緩慢 社会党の憲法改正要綱なる シンガポールの同胞抑留とは名のみ	マ司令部の見解。 主権の主体は国家、統治権の大部は議会に。 寛大な英軍、温い華僑。
2576	H 56	朝日新聞	1946	昭和21年	2	26	朝日新聞	新聞	総選挙の期日延期四月十日に執行 勤労意欲を振起し経済再建へ邁進	議員候補者の資格審査が遅れ3月31日の予定を変更。 幣原首相地方長官会議で訓示。
2577	H 57	朝日新聞	1946	昭和21年	2	27	朝日新聞	新聞	樺橋・石黒両氏国務相に親任 供米実績再び停滞 主婦の友は廃刊	内閣の2長官を国務大臣にしたことに疑問。 20日現在で4割9分。 講談社など7社の肅正方針決定に従って。
2578	H 58	朝日新聞	1946	昭和21年	2	28	朝日新聞	新聞	軍人・占領地官吏の追放範囲決る 極東委員会開く	勅任待遇以上の官職、特殊会社の幹部級就職禁止、市長就任の禁止等の勅令公布。指定追放該当者、特殊会社、協会を発表。 ワシントンで第1回11カ国参集。
2579	H 59	朝日新聞	1946	昭和21年	3	1	朝日新聞	新聞	天皇陛下帝都を御視察 日豪間の貿易開始 生産再び停頓す	バラック建の銀座等巡幸。 羊毛、小麦などを輸入。 原因は石炭、資材不足。
2580	H 60	朝日新聞	1946	昭和21年	3	2	朝日新聞	新聞	石炭価格引上げ、トン当り百五十円に 大衆闘争で人民革命 国共軍衝突の危機	新物価体系の構想成る。 共産党活動方針を声明。 共産軍 南満の鉄橋爆破。
2581	H 61	朝日新聞	1946	昭和21年	3	3	朝日新聞	新聞	所得税の基礎控除二乃至(ないし)三倍引上げ ソ連機米機に発砲 二百万円強奪	新価格体系による賃金、給与の引上げに対応。 大連近傍で10月にも旅順港沖で。 機帆船へ10人組。
2582	H 62	朝日新聞	1946	昭和21年	3	4	朝日新聞	新聞	新物価体系成る 新円第一日	漁采類は1/3日用品半値に引下げ。 顛落(てんらく)した盛り場駅の窓口もガラ空き。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2583	H 63	朝日新聞	1946	昭和21年	3	5	朝日新聞	新聞	肥料不足を克服し一般には平年作物価統制令	抜粋。
2584	H 64	朝日新聞	1946	昭和21年	3	6	朝日新聞	新聞	第二次農地改革制度へ 花婿は約九万人不足	土地所有は世帯単位地主保有3町歩に自主的「協同組合」を設立。 昨年の11月1日調査によると20才から29才の人口は男性17万3千人女性26万1千人。
2585	H 65	朝日新聞	1946	昭和21年	3	7	朝日新聞	新聞	国民の総意に立脚進んで戦争放棄へソ連の脅威へ強力同胞組合 総選挙と食料	憲法改正に勅語を賜う。 チャーチル英前首相ウエストミンスター大学で演説。 各政党は配給米”3合”を約束しているが本当にで
2586	H 66	朝日新聞	1946	昭和21年	3	8	朝日新聞	新聞	政府の憲法改正案要綱決る	「主権在民」を明示。「戦争の放棄」規定。マ元帥全面的に承認。政府改正全文掲載。
2587	H 67	朝日新聞	1946	昭和21年	3	9	朝日新聞	新聞	内閣居座りを決意 松岡に牧野良三氏、東条に清瀬、鹽原氏 「ホームソング」懸賞募集	憲法草案提出特別議会に臨まん。 A級戦犯者弁護士決る。 主催朝日新聞入選1,000円。
2588	H 68	朝日新聞	1946	昭和21年	3	10	朝日新聞	新聞	生産総合対策近く発表 戦慄すべき防疫状態 苦悶の法廷に立つ	統制機構を再整備。生産サボに設備譲渡命令。(社説)天然痘、発疹チフスが全国的に蔓延。東条弁護士両氏の決意。
2589	H 69	朝日新聞	1946	昭和21年	3	11	朝日新聞	新聞	E、G項の追放該当範囲決定 けふ選挙戦の幕開く 武器提出命令	日華事変来の大任、次官、知事、文筆家等。 婦人が参政権を得た最初の衆議院選挙の告示。第25師団長ムリンズ少将は15日迄に武器を警察へ提出するよう発令。
2590	H 70	朝日新聞	1946	昭和21年	3	12	朝日新聞	新聞	総選挙の火蓋切る	立候補届出殺到早くも800名突破。
2591	H 71	朝日新聞	1946	昭和21年	3	13	朝日新聞	新聞	憲法改正に臨時議会か	政府は憲法改正審議が極めて広範にわたるために総選挙終了後の特別国会とは別に臨時議会を改めて開催し審議することとした。
2592	H 72	朝日新聞	1946	昭和21年	3	14	朝日新聞	新聞	現金払い引締め購買力を吸収 札つき農家へ勧告状	封鎖預金の現金払いを引き締め流通現金を抑制して物価上昇を防ぐ。 供米強権収用年近在は嚴重に。
2593	H 73	朝日新聞	1946	昭和21年	3	15	朝日新聞	新聞	金融資本が握る生産死活の鍵 満鮮酷寒に衣なき百万人	戦時中の官僚統制に対し金融資本を推進力とする財界と官僚の抱合統制をとろうとしている。
2594	H 74	朝日新聞	1946	昭和21年	3	16	朝日新聞	新聞	二千五百に迫る無所属、諸派半数 憲法の改正やはり特別議会提出 海外同胞の引揚	立候補者総数2,490名、うち無所属、諸派は1,188名。 内外各般の情勢よりして速かに憲法改正の議を決定すべしとの意見が多数。 年内完了を目標。
2595	H 75	朝日新聞	1946	昭和21年	3	17	朝日新聞	新聞	創設自作農の維持に耕作権の移動禁止 憲法草案ご意見を伺いたし	第二次農地制度改革案、マ司令部に提出。 政府から皆さんへお願い。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2596	H 76	朝日新聞	1946	昭和21年	3	18	朝日新聞	新聞	平和国家の再建へ民主 的新教育勅語 依然お寒い食生活	戦前からの教育勅語に代り平和的国家再建にふさわしき「新教育勅語」の渙発必至。 魚、野菜の配給が決められた量を達成できない。
2597	H 77	朝日新聞	1946	昭和21年	3	19	朝日新聞	新聞	日本への食糧供給毎月 二十万トン必要 生産水準一倍半に	マ元帥は米陸軍省に対し「日本の食糧情勢は悪化の一途を辿り、大量の食糧輸入が必要である」旨通告。 ソ連新五カ年計画の全貌。
2598	H 78	朝日新聞	1946	昭和21年	3	20	朝四新聞	新聞	農林中金中心に肥料シ ンジケート団結成 天皇制の見方① 強権あす発動	4日連続で法学博士佐々木惣一氏の論文掲載。 供米の強権発動に対し北河内の農民3,500名が府庁へ反対デモ。
2599	H 79	朝日新聞	1946	昭和21年	3	21	朝日新聞	新聞	日本商品の輸出計画	マ元帥の綿糸、絹、人絹製品などの輸出復活計画試案を米陸軍省が承認した。
2600	H 80	朝日新聞	1946	昭和21年	3	23	朝日新聞	新聞	金融機関の融資統制 本間元中将死刑確定 発疹チフス防疫座談会	20日現在の額を限度に。 「パターン死の行進」の責任を問い銃殺刑としたマ ニラ軍事法廷の判決をマ元帥承認。 32年ぶりの大流行となった発疹チフスは大阪を中心 に患者が5,000人を超え、更に爆発的な流行 が懸念、映画館・劇場等閉鎖。
2601	H 81	朝日新聞	1946	昭和21年	3	24	朝日新聞	新聞	労務、材料集中配当 飢餓地獄の一年半	賠償として接收される予定の工場等施設を撤去ま で継続操業し増産に活用することとした。 ニューギニアで生き残って帰還した元軍曹の話。
2602	H 82	朝日新聞	1946	昭和21年	3	25	朝日新聞	新聞	明年度予算を大削減金 融措置更に強化 ブレトンウッズ協定	蔵相インフレ防止の所信表明。 国際通貨の安定のための会議が開かれた。復興開 発銀行も今秋設立。
2603	H 83	朝日新聞	1946	昭和21年	3	26	朝日新聞	新聞	漢字の複雑な国語、師弟 関係の封建制 巨大な兵器庫沖縄	米軍わが教育欠陥指摘。 在比米軍機関紙が「沖縄は米軍事基地に変貌」と 報じた。
2604	H 84	朝日新聞	1946	昭和21年	3	27	朝日新聞	新聞	廿一年度予算は三百億 円に圧縮 世界平和の憲章バー ンズ長官安保理事会で演 説	赤字公債は30億円。閣議で正式決定後、連合軍 最高司令官の承認を求めることとした。 国際憲章は、すべての国家に法の擁護以外の目的 に実力を行使し、また、その脅迫を避けるべき義務 を課していると演説。
2605	H 85	朝日新聞	1946	昭和21年	3	28	朝日新聞	新聞	全国の供米成績僅か五 割七分 外米神戸に安著(着)、久 しぶり岩壁に上がる歓呼	大都市の備蓄減少一途。 待望の加州米7,890トンを積載したパン・アメリカ ン・ヴィクトリー1号が入港。
2606	H 86	朝日新聞	1946	昭和21年	3	29	朝日新聞	新聞	軍需補償の対象は民需 転換企業に限定 東条等戦犯の起訴状約 百名愈々近日中に発表	総額は50億円程度。 A級容疑者としては元東条大将をはじめ、現在のと ころ約100名であるが、これらの全部が起訴される とはいえない。

ID	仮番号	文書名称	作成年	年号	月	日	作成者	カテゴリ	見出し	文書内容
2607	H 87	朝日新聞	1946	昭和21年	3	30	朝日新聞	新聞	最近の欧州を語る帰還特派員座談会 仏希を防壁に米英ソ大角逐イランがその決戦地	ヨーロッパ全体がロシア区域とアングロサクソン区域に分かれている。 北欧諸国に恐ろ感。イランは英にとって生命線であり、英・ソの決戦地のようである。
2608	H 88	朝日新聞	1946	昭和21年	3	31	朝日新聞	新聞	預金封鎖更に強化 日本的な性格を養え	小売業等払戻停止。世帯主も月100円に。 柔剣道の廃止は正しいと米国教育使節団が語った。